

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	アートセラピー／文芸との触れ合いVB						
担当教員	石原 興子					科目ナンバー	A22090
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アートセラピー（音楽）						
授業の概要	人は音楽や造形など様々な表現活動を行っています。それは人間の発達や変容にかかせない営みでもあります。日常の様々な音・音楽を意識することから、特に、医療・福祉・教育現場で行われている音楽療法という臨床的な分野を紹介し、様々な音・音楽の捉え方、芸術活動の営みに潜在している表現することの意味を探ることを目指します。授業では、視聴覚教材を用いながら、また、楽器などを用いた実際の演習を通して、ディスカッションや講義を行います。						
到達目標	1. 音・音楽について柔軟な考え方や捉え方ができるようになる。 2. 表現活動の演習を通して、自己を知る。 3. 音楽療法について、基本的な知識と理解ができる。 4. 人が表現することの意味について考えていくことができる。						
授業計画	第1回目 イン트로ダクション 第2回目 アートセラピーとは 第3回目 音と「きく」こと 第4回目 音を通じたコミュニケーション 第5回目 音・音楽の要素1 第6回目 音・音楽の要素2 第7回目 即興音楽 第8回目 音と「つくる」こと 第9回目 言葉と音・音楽療法 第10回目 日本文化における音・音楽療法 第11回目 描画と音・音楽療法 第12回目 音楽療法の実際 第13回目 音楽療法の理論 第14回目 音楽療法の実践（講義・演習の後に小テストを行う場合がある） 第15回目 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業で紹介する文献や配布されたプリントの取り扱う箇所を読んでおくこと。（学習時間90分） 授業後学習：各回の授業内で感じたことや考えをリアクションペーパーにまとめる。課題を出すので、その発表準備をすること。（学習時間90分）						
授業方法	講義、演習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	各回のリアクションペーパー・授業への参加度40% 発表30%、レポート・テスト等30% リアクションペーパーのコメント・質問等について翌週授業で紹介・解説します。						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない者、指定の発表日に不参加、レポート提出をしなかった場合は失格条件とします。 ＊授業に関する質問は授業後に直接行ってください。						
教科書	適宜授業内でプリントを配布						
参考書	「音楽療法—ことばを超えた対話」レスリー・バント著、稲田雅美訳、ミネルヴァ書房、ISBN4-623-02625-6						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	アミューズメント産業論							
担当教員	青谷 実知代					科目ナンバー	A72060	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本のアミューズメント産業の特性と現状・課題を概観する。							
授業の概要	東京ディズニーランドを皮切りに、日本は多くのテーマパークや遊園地を生み出してきた。アミューズメント産業は、バブル経済期の乱立時代とその後淘汰の時代を経て、現在では一定の市場規模を持つ観光の一分野として定着している。しかし、成功例ばかりではなく、これまで数多くのテーマパークが入場者数の減少から経営不振に陥り、閉園したケースもある。 本講義では、成功事例・失敗事例を含めケーススタディ通じて、アミューズメントパークの成功にとって重要な要素である経験価値について考えていく。							
到達目標	①アミューズメント産業の特性と現状を理解することができる。 ②アミューズメント産業の課題を意識することができる。							
授業計画	第1回 アミューズメント産業の特性と現状 第2回 テーマパークの歴史 第3回 東京ディズニーランドの発展 第4回 東京ディズニーリゾートの展開 第5回 オリエンタルランドの戦略 第6回 東京ディズニーリゾートの課題 第7回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの発展 第8回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの価値と戦略 第9回 ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの課題 第10回 東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンの比較検証 第11回 ハウスオブホースの現状と特性 第12回 キングダムオブハートの現状と特性 第13回 博物館・水族館・動物園の現状と特性 第14回 その他のアミューズメント産業の展開 第15回 アミューズメント産業と観光の取り組み							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	①関心のあるアミューズメント産業についてHPなどを確認しておくこと。 ②各アミューズメント産業のケースを整理しておくこと。							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	平常点：20%（各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問ほか）などにより評価する。） レポート・小テスト：20%（到達目標に関する到達度の確認） 期末試験：60%（到達目標に関する到達度の確認）							
履修上の注意	①授業中に配布するプリントは、出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布）。 ②授業回数の3分の1以上欠席した人は期末試験の受験資格を失うものとする。							
教科書	なし							
参考書	随時、授業中に紹介する。							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	イベント演出論						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	A22040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日常には様々なイベントがあります。ホームパーティーや地域のお祭りからオリンピックまでその大きさも形態も様々です。この授業ではイベントの企画や運営において必要な知識を学び、今後の人生において役立つイベントの企画運営の基本的な能力を養う。また社会的背景、文化、そして芸術とイベントとの関係についても考えてみたい。						
授業の概要	イベントの定義づけから始まり、イベントの企画運営に欠かせない要素を学び、大小のイベントの事例からそれらの要素がどのように適用されているかを学び、最終的にイベントの企画運営プランを作成して発表してもらう。						
到達目標	イベントの企画から当日の運営までの流れを理解し、将来かかわるかもしれない地域のイベント、仕事としてのイベントに応用できる基礎的な力を身につける。						
授業計画	1. イントロダクション：授業の進め方や評価、イベントの定義について 2. イベント主役：俳優、歌手、スポーツ選手、商品、参加者、施設 3. ターゲット層と宣伝方法 4. 空間演出 5. スタッフの役割とその演出 6. 予算の作成 7. (事例1) オリンピック：開催まで4年間の流れ 8. オリンピック：開会式のパフォーマンス 9. (事例2) 演劇公演：公演の企画から当日までの準備 10. 演劇公演：舞台演出について 11. (事例3) 盆踊り 12. 演習（グループでイベントを選んで企画を立てる）：テーマ設定 13. 演習（グループでイベントを選んで企画を立てる）：具体的な内容 14. グループ発表 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	与えられたテキストの予習復習。授業で与えられた課題をしっかりとこなすこと。後半のグループワークではメンバーと相談して資料の作成等を行う。						
授業方法	教師の講義とグループや全体でのディスカッション。グループ発表などの演習も行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点50%、グループ発表と期末レポート50%で評価する。、						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認められない。						
教科書	適宜資料としてプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	映像と大衆文化／比較文化ⅡA						
担当教員	西岡 恒男					科目ナンバー	A32030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画化されたさまざまな『美女と野獣』を比較し、特徴や相違点を考察する。						
授業の概要	フランスなどで民衆に親しまれ、20世紀に何度も映画化されてきた『美女と野獣』を取り上げ、まず原作物語の基本内容を概観する。次いで、種々の映画化作品を比較して、物語の違いやテーマの変遷などを考察する。書物＝「原典」を絶対視せずに、視覚メディアの発達した社会において、繰り返し映画化される物語の多様なあり方を知り、豊かな作品経験を目指す。						
到達目標	(1) 小説と映画の相違点に関して、基本的な知識を身につけることができる。 (2) 古い作品から最新作まで深く掘り下げることで、物語の歴史に関心をもつことができる。 (3) 作品比較によって物語内容やその解釈の多様さを知り、幅広い思考法を得ることができる。						
授業計画	第1回：『美女と野獣』の基礎①：成立過程（ポーモン夫人とヴィルヌーヴ夫人） 第2回：『美女と野獣』の基礎②：多種多様な作品群（小説・絵本） 第3回：小説から映画へ：ふたつのメディアの相違点 第4回：ジャン・コクトー版①：ジャン・コクトーの世界観 第5回：ジャン・コクトー版②：苦悩する野獣 第6回：ジャン・コクトー版③：人生の反転可能性 第7回：ユライ・ヘルツ版：チェコスロバキアの幻想映画 第8回：ディズニー版①：王子が野獣になった経緯、進歩的な女性としてのベル 第9回：ディズニー版②：『美女と野獣』から『野獣と美女』へ 第10回：ディズニー版③：原作にはない工夫、スリルとサスペンス 第11回：クリストフ・ガンズ版①：ディズニー版への対抗意識 第12回：クリストフ・ガンズ版②：絡み合う時間性、野獣の過去を振り返る 第13回：クリストフ・ガンズ版③：自然に帰る王子、フランスの伝統を意識 第14回：ダニエル・バーナズ版①：高校生恋愛ファンタジー映画 第15回：ダニエル・バーナズ版②＋まとめ：苦悩するのは女性？ それとも男性？						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う内容の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の整理・復習。可能であれば、課題の提出や松蔭manabaの確認なども求める予定。（学習時間：90分）						
授業方法	講義（各回、設定通りの内容で講義を行う。もちろん、重要な箇所は映像を授業内で上映する）						
評価基準と評価方法	授業への取り組み姿勢20%：マナーを重視し、積極的な参加を期待する。 授業ごとの提出物40%：リアクションペーパー・予習復習プリントなどの提出により、達成目標（1）と（2）の達成度を確認する。 レポート40%：授業内容に沿ったレポート提出を求める。達成目標（3）を意識し、自分なりの視点・思考法が身についているか確認する。レポートは添削したうえで返却予定。可能であれば講評も公開する。						
履修上の注意	授業回数の1/3以上の欠席がある者は、レポート提出による試験受験資格を失う。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。						
教科書	各回プリントを配付予定。						
参考書	『映画になった児童文学』、川端有子・水間千恵・横川寿美子・吉本和弘著、玉川大学出版部、ISBN978-4-472-40474-0						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	音楽の基礎							
担当教員	木本 雅子					科目ナンバー	A71010	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	読譜、音楽理論、音楽史を学び、様々な楽曲に触れることによってクラシック音楽の理解を深める。							
授業の概要	・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて講義と実技を交えながら進めていく。 ・音楽史を学ぶ中で様々な楽曲に触れ、音楽の持つ喜びを知ると共に音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。							
到達目標	音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を説明することが出来る。 音楽と他の分野の芸術との関係性を意識することが出来る。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 アンサンブル曲の素晴らしさやアンサンブルの楽しさに気づくことが出来る。							
授業計画	第1回 古代の音楽 古代ギリシアの音楽と理論 第2回 中世の音楽① モノフォニー 第3回 中世の音楽② グレゴリオ聖歌 第4回 ルネサンスの音楽① ポリフォニー 第5回 ルネサンスの音楽② 宗教改革と音楽 第6回 バロックの音楽① モノディー 第7回 バロックの音楽② バッハ、ヘンデル 第8回 まとめと中間試験 第9回 古典派の音楽① ホモフォニー 第10回 古典派の音楽② モーツァルト、ベートーヴェン 第11回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽 第12回 ロマン派の音楽② リート、オペラ 第13回 近・現代の音楽 絵画と音楽 第14回 日本における西洋音楽の流れ 滝廉太郎、山田耕作、中田喜直、團伊久磨、三善晃、武満徹 その他の作曲家 第15回 まとめと授業内容の総復習及び発表 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書及び指定した課題曲等の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間：90分） 授業後学習：授業内容の復習（学習時間：90分）							
授業方法	講義と実技							
評価基準と評価方法	平常点（授業態度、授業への積極性、授業内における課題など）と中間試験、レポートによって評価する。（平常点40％、中間試験30％、レポート30％の予定） 課題に対するフィードバックの方法 授業内に課す課題、中間試験結果について翌週授業で講評と解説をする。レポートの評価後は返却して各自にフィードバックする。							
履修上の注意	音を扱う授業であるので私語は厳禁。 出席回数が2/3未満である場合、評価の対象としない。							
教科書	『決定版 はじめての音楽史 一古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者 久保田慶一、ほか 音楽之友社 ISBN978-4-276-110199 上記の他、資料、楽譜を配布する。							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	歌曲の調べ／文芸との触れ合いVA							
担当教員	嶋村 のぞみ					科目ナンバー	A22080	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	クラシック音楽における声楽曲・歌曲のさまざまな作品にふれるとともに、歌い方の基礎を学びます。							
授業の概要	・ 西洋のクラシック音楽の発展とともに産み出されてきた声楽・歌曲作品と、日本に西洋音楽が導入され、日本国内で発展してきた声楽・歌曲作品の数々を、曲ごとの時代、作曲家、国、言語などの特色を知り、音源を見聞きしたり、楽譜をみたり、実際に歌ってみたりしながら学びます。 ・ ヴォイストレーニングを行ってから楽曲を歌う実技演習を行います。							
到達目標	1：身体の使い方と声との関連（ボディマッピング）を体得することができる。 2：無理のない発声と明確な発語での歌唱を身につける。 3：声楽作品についての歴史的考察と発声の技術を学習することにより、楽曲鑑賞の基本的な視点を身につけ、作品への味わいをより深く感受することができる。							
授業計画	第1回 オリエンテーション 声楽、歌曲とは 呼吸と発声のはじめ 第2回 「声」を「歌」にするためには 歌唱と言葉の発音 音程の取り方と体との連携 第3回 日本の歌曲① 日本の唱歌と世界の愛唱歌 第4回 ドイツ・リート① 詩と音楽との結びつき 声とピアノで描かれる世界 第5回 ドイツ・リート② リートの題材にとりあげられた物語のヒロインたち 第6回 日本の歌曲② 日本の芸術歌曲 山田耕筰と北原白秋 第7回 英語の歌曲 イングランドの伝承歌 アメリカでの音楽と歌曲の発展 第8回 第7回までのまとめ 第9回 オペラの楽曲① オペラの発祥～各国でのオペラの発展と作曲家 第10回 オペラの楽曲② オペラのキャラクター（役柄）と声質の分類 オペラ・アリアのたのしみ 第11回 日本と世界の民謡・民族音楽・音階 第12回 比較 日本の歌声と西洋の歌声 第13回 20世紀の歌曲・声楽 抒情歌・流行歌 エンターテインメント 第14回 歌唱演習のまとめ 第15回 まとめと試験							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：次回の授業で用いる曲について調べておくことを、毎回の授業で指示します。楽譜の歌詞、解説も必ず読んでおくこと。（学習時間90分） 授業後学習：復習レポートを毎回課します。授業で用いた曲、講義で学んだテーマ、演習で実践した実技、の復習・確認をしながら、同じ時代・作曲家などで関連する他の曲についても調べたり鑑賞してみたりしてみましよう。（学習時間90分）							
授業方法	講義と演習 テーマの概説をすすめながら、音源や映像で作品の鑑賞をしたり、実際に歌ってみたり、楽譜を分析したりします。 実技の演習 体をほぐす簡単な体操、呼吸、発声練習、をしたのち、楽曲を歌います。講義のテーマとは内容の異なる曲も用います。 欠席者には必ずレポートを課します。							
評価基準と評価方法	平常点40％ 積極性・授業態度を評価 レポート40％ 試験20％ 歌唱実技の試験を行います。							
履修上の注意	実技演習では、声を出し、身体を使いますので、必ず動きやすい服装で、水分補給のための水を常備してください。 音楽を聴くときのエチケットのひとつとしても、私語は慎むように。							
教科書	楽曲のプリントを毎回配布します。							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	キャラクタービジネス論						
担当教員	辻 幸恵					科目ナンバー	A72070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなビジネスをキャラクターグッズを通じて学ぶ。						
授業の概要	グローバル化が進む社会でキャラクター（マスコット）は多様なビジネスの要素を含んでいる。たとえばゆるキャラは地域に、スポーツマスコットは世界に、貢献しアピールしながらビジネスモデルをもっている。それらを学びよりビジネスを身近に感じてもらうことを目指す。						
到達目標	1. ビジネスの基本を知り、より興味・関心を持ってもらう。 2. キャラクタービジネスを通じてマーケティングの要素を習い、それらの意味するところを説明できる。 3. キャラクタービジネスの特性を理解し、他のビジネスへの応用する方策を身に付ける。						
授業計画	第1回 キャラクタービジネスとは何かを考える視点 第2回 キャラクターの定義と日本産キャラクターの魅力 第3回 キャラクターの分類と多様性 第4回 企業キャラクターの事例（不二家のペコちゃん） 第5回 キャラクターとマーケティングとの関係 第6回 消費者視点へのアピールと経営戦略 第7回 消費者心理とキャラクターの特性 第8回 ビジネス活用とキャラクター効果 第9回 キャラクター商品への理解 第10回 キャラクタービジネスのメリットとデメリット 第11回 企業キャラクターの本質とブランド化 第12回 キャラクターと智財 第13回 キャラクタービジネスと商品化権 第14回 キャラクターに関する諸問題 第15回 授業内容のまとめ・総復習と確認問題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（詳細は授業内で指示）（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間90分）						
授業方法	講義（各回設定のテーマについて講義をおこなう。各回の授業内で確認問題も解く）						
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 平常点40％：各回の授業内で毎回3問ずつ問題を出すのでその解答を提出。（到達目標1の到達度の確認） レポート20％：8回目に課題を提示する。15回目に提出。（到達目標2の到達度の確認） 15回目の確認問題40％：授業で学習したキャラクタービジネスについての確認。（到達目標3の到達度の確認） 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業のはじめに前回の問題の解答を解説する。						
履修上の注意	1. 毎回の授業内で実施する問題に対する解答はその授業内に提出すること。 2. 遅刻・早退は認めない						
教科書	『キャラクター総論』、辻幸恵・梅村修・水野浩児著、白桃書房、ISBN978-4-561-26509-2						
参考書	『キャラクタービジネス』、山田徹著、PHP研究所、ISBN4-569-61177-X						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎演習／文章表現A						
担当教員	西川 純司					科目ナンバ	A01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける						
授業の概要	大学での学習に必要な基礎的な技能や能力を身につけることを目指す。情報の収集・整理から文章表現、口頭発表に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現や口頭発表を実際に試み、表現することの楽しさを味わいながら、基礎的な表現法を身につけることができる。						
授業計画	1 オリエンテーションとキャンパス探索 2 大学での学び方 3 松蔭manabaの使い方 4 情報収集の基礎①：図書館オリエンテーション 5 情報収集の基礎②：文献・資料の探し方 6 情報収集の基礎③：本の読み方 7 情報収集の基礎④：情報を整理する 8 文章表現の基礎①：文体の統一 9 文章表現の基礎②：話し言葉と書き言葉 10 レポートの作成①：準備 11 レポートの作成②：作成 12 レポートの作成③：完成 13 プレゼンテーションの実践①：準備（1） 14 プレゼンテーションの実践②：準備（2） 15 プレゼンテーションの実践③：発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（20％）、プレゼンテーション（20％）、平常点（60％）						
履修上の注意	授業への積極的な参加が求められます。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。						
参考書	佐藤望編、『アカデミック・スキルズ 第2版』、慶應義塾大学出版会株式会社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎演習／文章表現A						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	A01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける						
授業の概要	大学での学習に必要な基礎的な技能や能力を身につけることを目指す。情報の収集・整理から文章表現、口頭発表に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現や口頭発表を実際に試み、表現することの楽しさを味わいながら、基礎的な表現法を身につけることができる。						
授業計画	1 オリエンテーションとキャンパス探索 2 大学での学び方 3 松蔭manabaの使い方 4 情報収集の基礎①：図書館オリエンテーション 5 情報収集の基礎②：文献・資料の探し方 6 情報収集の基礎③：本の読み方 7 情報収集の基礎④：情報を整理する 8 文章表現の基礎①：文体の統一 9 文章表現の基礎②：話し言葉と書き言葉 10 レポートの作成①：準備 11 レポートの作成②：作成 12 レポートの作成③：完成 13 プレゼンテーションの実践①：準備（1） 14 プレゼンテーションの実践②：準備（2） 15 プレゼンテーションの実践③：発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に参考書を読んでおくとう理解が深まります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（20％）、プレゼンテーション（20％）、平常点（60％）						
履修上の注意	授業への積極的な参加が求められます。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。						
参考書	佐藤望編、『アカデミック・スキルズ 第2版』、慶應義塾大学出版会株式会社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	A0102A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	A. サン=テグジュペリの『星の王子さま』を内藤濯の日本語訳で読む。						
授業の概要	世界で広く愛読されているA. サン=テグジュペリの『星の王子さま』を ○○ の日本語訳で購読する。必要に応じて適宜、他の訳者の日本語訳も紹介する。あわせて、いくつかのフランス小説を日本語訳で読む。						
到達目標	固有名詞、漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、作品を豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。テキストとして小説を読み解く上で、小説の技法の最初歩とでもいべき諸点(視点、語り、時間等)に着目できるようにする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の進め方、成績の評価など サン=テグジュペリについて ―時代的背景― 第2回 『星の王子さま』概説 ―文学史的背景― 第3回 象を飲み込んだうわばみの絵 第4回 王子さまとの出会い、羊の絵 スタンダール小説(抜粋)を読む 第5回 王子さまの星 第6回 バオバブの木 バルザックの小説(抜粋)を読む 第7回 花と王子さま 第8回 王子さまと星めぐりの旅 最初の星 モーパッサンの小説(抜粋)を読む 第9回 次の星、三番目の星 第10回 四番目の星 第11回 五番目の星 19世紀末の幻想小説(抜粋)を読む 第12回 六番目の星 レポートの課題と書き方 第13回 そして地球 E. ゾラの小説(抜粋)を読む 第14回 ふたたび花と王子さま 第15回 総まとめ 期末レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙、事項を広辞苑などの大辞典や百科事典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提となる。						
授業方法	講読。教員による問いかけ、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストと一緒に読んでゆく(声に出して輪読する)。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認めない。 教科書は必ず授業開始前に購入して、第1回目の授業から毎回持参すること。						
教科書	アントワヌ・サン=テグジュペリ著、内藤濯訳 『星の王子さま』 (岩波少年少女文庫 001) 岩波書店 2000年刊 ISBN(10) 4-00-114001-2						
参考書	授業の展開に応じて、適宜指示します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバー	A0102A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メーテルリンクの『青い鳥』を読む。						
授業の概要	1911年にノーベル文学賞したメーテルリンクの代表作の一つである『青い鳥』を江國香織の訳で講読する。						
到達目標	単に物語をおって本を読んでいくというのではなく、言葉が持つ意味を吟味し、物語に登場する人物や場所、そして各場面で起こる出来事の中にあらわれる作者の意図を読み解いて行く読書法を身につける。作品にはテーマがあり、それを探り出す読み方を身につける。						
授業計画	1. イントロダクション：授業の進め方や評価、そしてメーテルリンクについての説明 2. 戯曲『青い鳥』とその文学的背景の説明 3. 「はじまり」：幸せはどう描かれているか 4. 「はじまり」：見えるということについて 5. 「妖精の邸宅」 6. 「記憶の国」：お墓という文化 7. 「記憶の国」：時間という概念 8. 「夜の城」：「悪」を連想させる物や出来事 9. 「夜の城」：戦争と病気 10. 「月夜の森」：人間と動植物との関係 11. 「月夜の森」：自然破壊による環境問題 12. 「幸福の館」：人間の生きる目的 13. 「幸福の館」：裕福と幸福の関係 14. 「路上で」 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙があれば必ず調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストを一緒に読んでゆく（声を出して輪読する）。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。、						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認められない。 教科書は必ず授業開始前に購入して、第1回目の授業から毎回持参すること。						
教科書	モーリス・メーテルリンク著、江國香織訳『青い鳥』講談社、2016 ISBN 978-4-06-293540-1						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	槻本 正行					科目ナンバー	A0102B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	A. サン=テグジュペリの『星の王子さま』を内藤濯の日本語訳で読む。						
授業の概要	世界で広く愛読されているA. サン=テグジュペリの『星の王子さま』を ○○ の日本語訳で購読する。適宜、他の訳者の日本語訳も紹介する。あわせて、いくつかのフランス小説を日本語訳で読む。						
到達目標	固有名詞、漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、作品を豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。テキストとして小説を読み解く上で、小説の技法の最初歩とでもいふべき諸点(視点、語り、時間等)に着目できるようになる。						
授業計画	第1回 『星の王子さま』 基礎講読Aの振り返り 第2回 ヘビとの会話 第3回 キツネとの出会い 第4回 キツネとの出会いがもたらしたもの J. de ネルヴァルの小説(抜粋)を読む 第5回 ポイント切換え鉄道員と物売り 第6回 バラと王子さま M. ブルーストの小説(抜粋)を読む 第7回 井戸を求めて 第8回 王子さまとの別れ(死) 第9回 最終章から作品を振り返る B. ヴィアンの小説(抜粋)を読む 第10回 最終章から作品を振り返る 第11回 バンド・デシネ(コミックス)版、その他の改作 第12回 期末レポートの説明 J.-P. サルトルの小説(抜粋)を読む 第13回 サン=テグジュペリの作品 第14回 空から地球を見た作家 サン=テグジュペリの人と思想 -手帳から 第15回 全体の総まとめ 期末レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙、事項を広辞苑などの大辞典や百科事典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提となる。						
授業方法	講読。教員による問いかけ、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストと一緒に読んでゆく(声に出して輪読する)。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認めない。 教科書や購読の配布プリントは必ず持参すること。						
教科書	アントワヌ・サン=テグジュペリ著、内藤濯訳 『星の王子さま』 (岩波少年少女文庫 001) 岩波書店 2000年刊 ISBN(10) 4-00-114001-2						
参考書	授業の展開に応じて、適宜指示します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	枅井 智英					科目ナンバ	A0102B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メーテルリンクの『青い鳥』を読む。						
授業の概要	1911年にノーベル文学賞したメーテルリンクの代表作の一つである『青い鳥』を江國香織の訳で講読する。						
到達目標	単に物語をおって本を読んでいくというのではなく、言葉が持つ意味を吟味し、物語に登場する人物や場所、そして各場面で起こる出来事の中にあらわれる作者の意図を読み解いて行く読書法を身につける。作品にはテーマがあり、それを探り出す読み方を身につける。						
授業計画	1. 「真夜中の墓地」 2. 「未来の王国」：子どもたちの世界 3. 「未来の王国」：科学の発展という功罪 4. 「お別れのとき」 5. 「目覚め」 6. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：モスクワ芸術座 7. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：バレエの『青い鳥』 8. 戯曲『青い鳥』の様々な上演：アニメ『青い鳥』 9. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：作品の解説とその背景 10. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：戯曲を読む 11. メーテルリンクの短編戯曲『群盲』：戯曲の演出について 12. 『群盲』のいくつかの上演を見る。 13. 『青い鳥』と『群盲』の比較：「見える」という視点から 14. 『青い鳥』と『群盲』の比較：「子供と老人の扱い」という視点から 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙があれば必ず調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストと一緒に読んでゆく（声を出して輪読する）。						
評価基準と評価方法	授業への参加度や授業態度などの平常点40%、期末レポート60%で評価する。、						
履修上の注意	全授業回数の3分の2以上出席しないとレポートの提出は認められない。 教科書は必ず授業開始前に購入して、第1回目の授業から毎回持参すること。						
教科書	モーリス・メーテルリンク著、江國香織訳『青い鳥』講談社、2016 ISBN 978-4-06-293540-1						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ギリシャの神話と文学／西洋古典入門ⅠA（ギリシアの神話と文学）						
担当教員	木下 昌巳					科目ナンバー	A71050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ギリシアの神話と文学						
授業の概要	古代ギリシア人の驚嘆すべき文化的達成（叙事詩、叙情詩、悲劇、喜劇、歴史叙述、哲学、弁論、彫刻、建築等々）は西洋、ひいては現代世界の学問文化の源流であるとともに、今日もその模範としての意義を失ってはいない。そして彼らの文学も哲学も歴史も美術も、諸民族の神話と比較して格段に豊かで洗練された彼らの神話のインスピレーションから生まれてきた。この授業では万華鏡のようなギリシア神話の世界と、その神話を題材としたギリシア古典文学の特質と魅力について学んでゆく。						
到達目標	①古代ギリシアの神話と文学についての知識を身につけて、西洋の文学・芸術をその背景から理解できるようになる。 ②古代ギリシアにかぎらず、広く神話というものの特長を学び、神話と文学の関係をあり方を理解できるようにする。						
授業計画	第1回 神話(mythos, myth, mythology)とは何か？ ギリシア神話の原典は？ 第2回 ギリシア神話の構造—宇宙の生成、神々、英雄、人間 第3回 ギリシア文学の時代区分、古典期アテナイ—ギリシア文化の黄金期 第4回 王位篡奪神話とオリンポスの神々 第5回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(1)—『イリアス』 第6回 トロイア戦争とホメロスの叙事詩(2)—『オデュッセイア』 第7回 プロメテウス神話とヘシオドスの人間観 第8回 アイスキュロスの『縛られたプロメテウス』 第9回 ギリシア神話の英雄たち—ヘラクレス、不条理を生きる 第10回 ギリシア神話の英雄たち—ペルセウス 第11回 ギリシア神話と日本の神話 第12回 ギリシア悲劇の最高傑作—ソポクレスの『オイディプス王』 第13回 女の叫び—エウリピデスの『メデシア』 第14回 貞淑で賢い女の楽しい話—エウリピデスの『ヘレネー』 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって、教科書を読むと共に、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、レポート70%で評価する。						
履修上の注意	受講生は指示に従って教科書をしっかりと読み、ギリシア神話に登場する主要な神々や英雄たちについての基礎知識を身につけること。単なる紹介の域を超えた講義が成立するためには、受講生の側の積極的な準備が不可欠である。教科書は2回目の授業までに入手すること。						
教科書	『ギリシア神話—神々と英雄に出会う』 西村賀子著 中公新書 ISBN4-12-101798-6						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	鍵盤楽器／文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	上野 静江					科目ナンバー	A22070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	鍵盤楽器（パイプオルガン・チェンバロ）の演奏体験を通して音楽と触れ合う						
授業の概要	音楽とより深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器（パイプオルガン・チェンバロ）の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を体験しましょう。						
到達目標	鍵盤楽器の演奏体験を通して名曲に触れ、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、取り巻く文化環境を学び知る。取り組んだ楽曲を一つの演奏にまとめ仕上げるプロセスを通して、それらを統合的に身につけることができる。						
授業計画	第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学 *学内にあるパイプオルガン・ポジティブオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。 第2回 パイプオルガン・チェンバロについての基礎知識。 *バロック期の代表的な鍵盤楽器のための作品を鑑賞し、そのしくみや成立の背景、歴史を知る。 第3回 弾くための基本（1）タッチ 第4回 弾くための基本（2）アーティキュレーション 第5回 「チェンバロができるまで」「パイプオルガン誕生」DVD鑑賞 *楽器の製造工程を見ながら詳細に触れ、国による様式や音色の特徴を知る。 第6回 バロックの小曲を弾いてみよう（1）ドイツ 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう（2）イタリア 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう（3）フランス *バロック時代の小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際に演奏しながら詳細を学ぶ。 第9回 アンサンブルをしてみよう（1） 第10回 アンサンブルをしてみよう（2） 第11回 アンサンブルをしてみよう（3） *簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第12回 発表会の準備（1） 第13回 発表会の準備（2） 第14回 発表会の準備（3） *各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。 また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲家や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。 第15回 クラス内発表会（期末試験を兼ねる） *学期中に取り組んだ曲の中で、ソロ曲1曲とアンサンブル曲1曲を選び演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	学外でも鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（20%）学期末試験（30%）						
履修上の注意	1）鍵盤楽器の経験があることが望ましい。 2）譜読みはできる限り自宅でしておくこと。 3）学外見学（楽器工房または楽器博物館等）の可能性がある。						

教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学						
担当教員	長谷川 眞					科目ナンバー	A72100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による日本列島史～						
授業の概要	物質文化を対象とする考古学的方法（編年論・型式論・分布論）を学びます。最近の考古学研究により解明された日本列島の歴史を、各時代の主要テーマに即し、旧石器時代から近代までたどります。また、神戸が日本全体の歴史に關与した地域史的なテーマも取り上げます。講義と演習と現地研修により、遺跡と遺物の実際に触れながら、日本考古学を学びます。						
到達目標	歴史研究の方法論の一つ、考古学の方法を学ぶことにより、学芸員として必要な知識や思考法を身につけます。具体的には、人間活動が展開された場所（遺跡）の地形、地理的要因を理解し、人と土地との相関関係を環境要因も加えて分析し、また、地図から地形を読み解き、資料の観察力を高め、ものから技術の進歩と精神性、人間の交流について説明できる方法を身につけます。編年や文化論に有効な考古学的方法である型式分類を会得し、考古資料を用いて日本歴史を時系列をおって述べることを手法を身につけます。						
授業計画	第1回 考古学とは何か～考古学入門～ 第2回 考古遺物で語る日本史 第3回 考古学の方法～考古学的方法と自然科学～ 第4回 原始時代の暮らしとまつり～旧石器・縄文時代～ 第5回 縄文人と弥生人 第6回 弥生時代の祭祀と暮らし～魏志倭人伝の世界～ 第7回 遺跡現地実習 第8回 古墳時代の始まりと倭の五王～ヤマト政権の成立と巨大古墳～ 第9回 地方豪族の台頭と人々の暮らし 第10回 律令国家の成立と変容～飛鳥時代から平安時代～ 第11回 考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第12回 古代の手工業生産の都鄙の生活 第13回 福原京と大輪田泊、そして中世社会～貴族文化から武家文化へ～ 第14回 近世兵庫津から近代神戸へ 第15回 総括 考古学からみる歴史像						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	休日には、月1回（2時間）程度、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学し、遺跡の現地説明会などに参加ください。史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史・地理を考える習慣をつけてください。なお、事後学習として授業内容の見直しを1時間程度おこなってください。						
授業方法	講義及び演習と現地見学						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%。なお、試験・レポートに関する質問は、授業の前後で受け付けます。						
履修上の注意	(1)履修の対象者 考古学、歴史学、文化財、世界遺産、日本遺産に興味や関心を持っている人 (2)授業外の学習 図録や博物館で「もの」（土器、石器、青銅器、埴輪、瓦、陶磁器など）を観察し、その作り方や使用法を考えてください。また、その分布範囲にも注意しましょう。授業で学ぶ見方を参考に古社寺、古墳、城跡、庭園などを見学してください。 (3)現地見学の実施 考古学はものを見る目を養います。2回ほど博物館等や遺跡を見学し、具体的に資料を観察して情報を引き出すとともに、遺跡の位置から歴史を考える方法を学びます。見学には、交通費と施設により入場料が必要となります。						
教科書	プリント配布						
参考書	『日本の考古 ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第1版、白石太郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第1版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えることができます。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立てることができます。						
授業計画	<前期> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ <後期> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義） ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容、取り組む姿勢、発表力などを考慮し、総合的に評価します。						
履修上の注意	この授業では、毎回みなさんに「書くこと」をしていただきますので、「書くこと」に興味のある人が対象です。さらに自分の意見や考えを「話すこと」にもチャレンジしてください。そして広告企画を通じて、アイデアを練る楽しさや表現する楽しさを味わいましょう。						

教科書	なし
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方づくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー-コミュニケーションをデザインする』 (株) 電通

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告表現・コピーライティング／文芸との触れ合いⅥA						
担当教員	藤井 推					科目ナンバ	A22100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・コピーライティングの理論と実践						
授業の概要	「広告はラブレターである」「広告はニュースである」…等広告は様々な側面をもって語られますが、消費者の心の動きを洞察しいかにして購買に結び付けるかを突き詰めて考えていく作業です。本授業では、広告のキーであるコピーについての考察を様々な角度から行っていきます。そのために、最近成功したキャンペーンや話題になったCMから世界のCMまでを取り上げながらコピーライティングの基本を学んでいきます。						
到達目標	消費者の心理を洞察し、どうしても好きになってももらえるか、どうしても買ってもらえるか自分ならではの仮説をたて、それをわかりやすく説明することを体験し、一人一人のコミュニケーション能力を向上させます。このチカラは広告業界だけではなく、社会生活全般で役立つものです。また、優れた広告を多く鑑賞することによって、広告の自由な発想や楽しさも理解できます。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 広告制作にあたって一番大事なこと 第2回 本校の学生募集広告を考えよう（クリエイティブワークショップその1） 第3回 A C ジャパンのキャンペーンの研究と課題 第4回 クリエーティブワークショップその2（公共広告） 第5回 課題の商品新聞広告を考えよう 第6回 クリエーティブワークショップその3（商品広告） 第7回 広告規制のはなし【ゲストスピーカー J A R O】 第8回 課題のテレビCMを考えよう 第9回 クリエーティブワークショップその4（テレビCM） 第10回 企業広告の研究と課題 第11回 クリエーティブワークショップその5（企業広告） 第12回 身近な店づくりから広告まで考えよう 第13回 クリエーティブワークショップその6 第14回 世界の広告（2017カンヌクリエイティブフェスティバルより） 第15回 この授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習 テレビCM、新聞広告、電車内吊りポスター等身近にある広告を日々意識してチェックしてください。 授業後学習 ワークショップで課題制作が完成しなかった場合、次回までに完成させてください。						
授業方法	講義と実習（ワークショップ）						
評価基準と評価方法	平常点50％・課題制作と発表50％						
履修上の注意	授業の中で、実際のコピー制作の課題を与えます。想像力を駆使して実作に取り組んでください。また、そのために考えた仮説を最重視します。						
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。授業に当たって、ACC（CMフェスティバル）入賞作やACジャパンキャンペーン集等のCMを鑑賞します。						
参考書	授業の中で適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告とコミュニケーション／比較文化VA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A32060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告や広報を受け取る側にいて、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかかれています。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告計画、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告、広報活動などを見ながら解説していきたいと思います。						
到達目標	・ 広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。 ・ 実際の広告物を専門用語を使って分析できるようになることを目指します。 ・ また、広報活動についても同様に、基礎的な知識を身につけることができます。						
授業計画	1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティングと広告 4 広告主と広告会社 5 広告費 6 広告表現 7 広告媒体 8 ブランド・コミュニケーション 9 広告関連の法規と規制 10 インターネット広告 11 広報（PR）の基本 12 地域社会と広報 13 イベントと広報 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成に役立ちます。						
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も設けます。						
評価基準と評価方法	レポート 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	広告・広報について基本的な知識をおさえておきたい人はぜひ受講してください。 後期の「比較文化VB」と合わせて受講することが望ましい。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版] 』、有斐閣、2008年 日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広報広告と社会／比較文化VB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A32070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告（広報）に関する基礎的な知識の応用						
授業の概要	本講義では、広告（広報）の基礎的な知識をもとに、社会において広告がどのように役立っているのかを多角的に理解しつつ、実際の広告物の制作へとつなげていくことを目指します。まず、映画やソーシャルメディアを事例に、広告（広報）の役割をさまざまな角度からみていきます。また、それらのトピックごとに広告（広報）を企画することによって、広告制作がどのようなものなのかについて実践的に学びます。これらを踏まえたうえで最後に、簡単な広告をつくることに挑戦してもらいます。						
到達目標	・映画やソーシャルメディアにおける広告（広報）の役割について多角的に理解できるようになる。 ・広告（広報）の企画や制作を通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイテアを発信するための力をつける。						
授業計画	1 インTRODクシヨン 2 映画と広告（1）：ジブリ映画の広告① 3 映画と広告（2）：ジブリ映画の広告② 4 映画と広告（3）：製作委員会方式 5 映画と広告（4）：映画広告の企画 6 ソーシャルメディアと広告（1）：『トウルーマン・ショー』鑑賞 7 ソーシャルメディアと広告（2）：『トウルーマン・ショー』解説 8 ソーシャルメディアと広告（3）：ネット時代の消費と広告 9 ソーシャルメディアと広告（4）：イベントの企画 10 広告をつくる（1）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（2）：広告コンセプトを決める 12 広告をつくる（3）：広告の表現方法を定める 13 広告をつくる（4）：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。日常的に広告を意識するようにしておくと、制作課題や広告企画に役立ちます。						
授業方法	講義を中心としますが、実際の広告（広報）や映画などの映像を観るほか、グループワークを通じて広告を企画する機会も設けます。						
評価基準と評価方法	制作課題 50%、広告企画 20%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	グループワークに積極的に参加することが求められます。前期の「比較文化VA」と合わせて受講することが望ましい。2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	宗教と文芸						
担当教員	宮本 憲					科目ナンバー	A72080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画と宗教						
授業の概要	宗教は人間社会にとって普遍的現象です。現代のように社会の全般的世俗化が進行し、伝統的な制度的宗教が衰退したかにみえる時代でも人間の宗教性が消滅したわけではありません。それ故、宗教と無関係な人物や事件を描いているように見えても、実は深い宗教的含意をもった文化・文芸作品が多数存在します。本講座では、比較的新しい欧米の映画の鑑賞と分析を通して、一見非宗教的にみえる作品にも宗教的意義がひそんでいることを明らかにし、それがどのようなものであるか考えます。						
到達目標	●文化と宗教の関係に対する洞察力を身につける。 ●それぞれの作品において宗教や宗教的テーマがどのように扱われているか説明できる。						
授業計画	A. イントロダクション 第1週 オリエンテーション（授業の概要） 第2週 文化、宗教、宗教性 B. ファンタジーと宗教 〜映画「ナルニア国物語」（2005/2010） 第3週 背景説明と鑑賞 第4週 鑑賞（続） 第5週 分析と考察 C. 信仰に生きる 〜映画「アメイジング・グレイス」（2006） 第6週 背景説明と鑑賞 第7週 鑑賞（続） 第8週 分析と考察 D. 科学と宗教の接点 〜映画「コンタクト」（1997） 第9週 背景説明と鑑賞 第10週 鑑賞（続） 第11週 分析と考察 E. 人間の救済の物語 〜映画「美女と野獣」（2017） 第12週 背景説明と鑑賞 第13週 鑑賞（続） 第14週 分析と考察 F. まとめ 第15週 まとめと展望 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の復習を忘れないようにして下さい。						
授業方法	講義形式。映画鑑賞後、ディスカッションも行います。						
評価基準と評価方法	課題点（レポートやテスト）及び平常点（授業への参加度、受講態度など）により評価（課題点70%、平常点30%の予定）。映画ごとの小レポートを予定しています。						
履修上の注意	●4回以上欠席した場合は、原則として不合格とします（4回も含む）。 ●欠席・遅刻は減点対象となります。私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。 ●初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないように。 ●私語などによって他の履修者の学習を妨げることを意に介しない学生は受講を遠慮していただきます。						

教科書	特になし。 配付資料によって授業を行います。
参考書	旧新訳聖書 C. S. ルイス『ライオンと魔女―ナルニア国ものがたり〈1〉』(岩波少年文庫) C. S. ルイス『朝びらき丸東の海へ―ナルニア国ものがたり〈3〉』(岩波少年文庫) カール・セーガン『コンタクト』(上・下) (新潮文庫) その他、授業の中で紹介します。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	諸芸術の交流／比較文化ⅠA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A32010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽、映画などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の流れを説明することができる						
授業計画	1. 導入、授業計画の説明 2. 19世紀小説の特徴（1）バルザック 3. （2）写実主義の小説 4. （3）自然主義の小説 5. 19世紀小説への疑問（1）全能の作者の問題 6. （2）アンドレ・ジッドの『贋金つかい』 7. （3）ヌーヴォー・ロマン 8. 20世紀イギリスの小説 9. フランス印象派の絵画 10. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽 11. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 12. 第2次世界大戦以前の映画 13. ヌーヴェルヴァーグ映画の革新 14. ヌーヴェルヴァーグとフランス文学 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	普段から、できる限り、外国の文芸（美術、音楽、小説、演劇etc）に触れる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	ジャーナリズムの表現／文芸との触れ合いVIB							
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバー	A22110	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・ジャーナリズムの文章に親しむ ・新聞、テレビ、インターネットなどのニュースを読み解く力をつける							
授業の概要	ジャーナリズムやノンフィクションの文章に親しむために、新書を計5冊を読破します。 2018年度は「フェイクニュース」をテーマに、ネットメディアについて学ぶところからスタートします。 新書2冊をゼミ形式で一緒に読みます。授業外でも学生それぞれが自由に選んだ最低3冊を読み、レポートを書くことを課題とします。 上記レポートに加えて随時、課題も出します。 授業では毎回、新聞記事やインターネットのニュースも精読します。							
到達目標	・ジャーナリズムやノンフィクションの文章を読み解ける ・ネットメディアの特質を理解できる ・本を読むこと、文章を書くこと、ニュースに接触することが生活習慣になる							
授業計画	第1回 ガイダンス／教科書の概説／講義「新書」とは何か 第2回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む①著者を知る／授業外課題図書①を決める 第3回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む② 要約してみる／共通図書A（2冊目の教科書）を決める 第4回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む③ 自分の「ポイント」を探す 第5回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む④ 自分の「ポイント」を発表／授業外課題図書①のレポート提出 第6回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む⑤ 参考文献へ広げる／授業外課題図書① プレゼンテーション／授業外課題図書②を決める 第7回 教科書「ネットメディア覇権戦争」を読む⑥ 収穫を書き出す 第8回 共通図書Aを読む① 構成をつかむ／授業外課題図書② プレゼンテーション 第9回 共通図書Aを読む② ポイントをつかむ／授業外課題図書②のレポート提出 第10回 共通図書Aを読む③ 社会との関連を探る／授業外課題図書③を決める 第11回 共通図書Aを読む④ 「読み方」を交換する 第12回 共通図書Aを読む⑤ 関連図書と比べる／授業外課題図書③ プレゼンテーション 第13回 共通図書Aを読む⑥ まとめ／授業外課題図書③のレポート提出 第14回 共通図書A レポート提出 第15回 共通図書A振り返り／授業のまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業外で10月～12月の3カ月間に新書計3冊を読み、1冊ごとにレポートを提出、授業で発表（プレゼンテーション）します。何を読むかは学生それぞれが選び、教員と相談の上で決定します。							
授業方法	ゼミ形式です。能動的な発表や質問を重視します。							
評価基準と評価方法	・テストはありませんが、授業への参加度（出席数・発言など）30%、共通図書2冊のレポート40%、授業外課題図書3冊のレポート30%の割合で採点します。 ・出席10回以上を単位習得の必須条件とします。							
履修上の注意	第1回授業に必ず教科書を持参してください。共通図書Aは10月中に決定します。各自、購入してください。 授業で使う教科書・課題図書はアンダーラインなど記入が多くなるので、図書館の本ではなく、必ず購入してください。							
教科書	藤代裕之「ネットメディア覇権戦争 偽ニュースはなぜ生まれたか」（光文社新書、800円＋税）							
参考書								

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	随筆とコラムの技法						
担当教員	木下 昌輝					科目ナンバ	A22020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りの出来事をエッセイ随筆として筆記する。						
授業の概要	身の回りの出来事をエッセイや随筆として残すための、基本的な文章作法を学ぶ。						
到達目標	日常の出来事からエッセイ随筆を執筆できる。						
授業計画	第01回 全体説明 アンケート 第02回 起承転結など様々な文章スタイル 第03回 課題「自分の好きな本」の講評 講師講評 第04回 課題「自分の好きな本」の講評 作者所感 第05回 結論を書かずに感じさせる方法 第06回 新聞調の5W1Hの文体で書く 第07回 人とは違う視点で書く 第08回 日常を描写する 第09回 人物や風景の特徴をとらえる 第10回 新聞ニュースから思うところを書く 第11回 課題「旅」の講評 講師講評 第12回 課題「旅」の講評 作者所感 第13回 課題「忘れられない人」の講評 講師講評 第14回 課題「忘れられない人」の講評 学生講評 第15回 課題「忘れられない人」の講評 作者所感						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題にしたがって、400字～3200字の作品を制作し、期間内に提出、講義内で学生による発表と講師講評。						
授業方法	講義および課題提出。提出課題を生徒が朗読し、講師が講評します。						
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点。課題の出来栄が50点。						
履修上の注意	平常点は授業態度の他に、課題の〆切の遵守も重視します。						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西欧芸術と文化／文芸講読ⅠA						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A12010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画の鑑賞と分析の方法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の近代絵画を論じた文芸評論を、発表形式で精読する。						
到達目標	フランス印象派の絵画とその魅力について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画 2. 発表例の提示：評論「モネ」（１）光 3. 同 （２）自然 4. バルビゾン派、コロー、ミレー 5. ターナー、ドラクロワ 4. 評論「セザンヌ」（１）プロフィール 5. 同 （２）自然 6. 同 （３）光 7. 同 （４）色彩 8. 評論「ゴッホ」（１）プロフィール 9. 同 （２）作品 10. ワグナー、ボードレール 11. 象徴主義 12. 評論「ピカソ」 13. ゴヤ、ベラスケス 14. レンブラント 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	美術展に通うこと。						
授業方法	発表は、小林秀雄の評論に出てきた画家や文学者、音楽家の経歴を調べ、有名作品を紹介する形で行う。						
評価基準と評価方法	平常点５６％、テスト４４％						
履修上の注意	欠席５回で失格とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋の近現代演劇／文芸講読VIB						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	A12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較し、その相違を考察する。						
到達目標	戯曲分析や上演分析を俳優の演技という視点から行う基礎能力を身につける。						
授業計画	1. 作品とその背景 2. 映画作品と戯曲について 3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 作品解説とビデオ鑑賞 4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② ビデオを見て事件の詳細について情報収集 5. 演技を考える：与えられた状況(演じる役) 6. 演技を考える：与えられた状況(演技する環境) 7. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より 8. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に 9. 演技を考える：キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に 10. 物語の展開と作品の背景について 11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景 12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。 13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較 14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に 15. まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	テキストの予習、レポートの作成。						
授業方法	ビデオ鑑賞と講義が中心。演技の分析ワークも行う。						
評価基準と評価方法	授業の平常点(40%) 期末レポート(60%)						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋文芸と映画／文芸講読ⅡⅡA						
担当教員	平川 大作					科目ナンバー	A12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 『長いお別れ』と『ロング・グッドバイ』						
授業の概要	レイモンド・チャンドラー（1888生／1959没）はハードボイルド・スタイルの推理小説を代表するアメリカ作家で、その人物造形や文体は、現在にいたるまで多くの後進に影響を与え続けている。本講義では長編小説『長いお別れ』（1953）の講読を軸に、それを原作にした映画『ロング・グッドバイ』（1973）を参照しながら、アメリカの都市生活者におけるモラルと美意識について考えたい。村上春樹、ミステリー、探偵、一人称小説に関心のあるひとに受講を勧めます。						
到達目標	文学テキストの読解能力を高めることができる。言語と映像それぞれの表現の特質について分析的に考察できるようになる。						
授業計画	第1回：単位認定の説明、チャンドラー以前のミステリー小説について 第2回：作家の生涯と作品、チャンドラーの短編 第3回：『長いお別れ』輪読Ⅰ 一人称小説 第4回：輪読Ⅱ 比喩 第5回：輪読Ⅲ ハードボイルドの文体 第6回：輪読Ⅳ 人物造形 第7回：輪読Ⅴ プロット 第8回：輪読Ⅵ 都市生活者 第9回：映画鑑賞 前半 第10回：映画鑑賞 後半 第11回：輪読Ⅶ 謎解き 第12回：輪読Ⅷ モラルと美意識 第13回：関連エッセイを読む 第14回：フィリップ・マローウとチャンドラー 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分で小説を読んでおくこと。関連のありそうな小説／映画／マンガ／アニメなどの鑑賞を推奨します。						
授業方法	担当を決めた輪読やディスカッションをメインとした講義						
評価基準と評価方法	各授業での発言／発表60%、学期末レポート30%、ボーナス評価10%。						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席が必要。各講義における積極的な発言／発表を評価します。授業について質問等はいつでも dhira@otemae.ac.jp までお気軽に。						
教科書	レイモンド・チャンドラー、村上春樹訳『ロング・グッドバイ』（ハヤカワ・ミステリ文庫）						
参考書	チャンドラーの諸作品						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅠA						
担当教員	多賀谷 真吾・西岡 恒男					科目ナンバー	A0105A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代のイギリス・フランスの文学と文化						
授業の概要	【前半】 担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話をする。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 【後半】 担当者：西岡 恒男 テーマ：フランス近現代文学概説 16世紀のモンテーニュから2014年にノーベル文学賞を受賞したモディアーノまで、フランス文学作品を概観する。時代・内容は多様だが、一貫するのは「人はいかに生きるか？」という問いだろう。作者たちはみな、逆境に立ち向かい、壮絶な人生を生きた。いわば、物語を書くこと・読むことが人生そのものだと言えよう。本講義では、物語を読むことによって作家（＝他者）の考えを受け入れ、これからの人生を豊かにする多様な視点・思考法を養うことを目指したい。						
到達目標	近現代のイギリス・フランスの文学と文化を理解できる。						
授業計画	担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザーグースとは？ 第4回：詩人と自然—ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1）『いまを生きる』 第7回：詩と映画の深い関係（2）『マディソン郡の橋』 第8回：まとめと結論 担当者：西岡 恒男 第9回：16世紀：モンテーニュ『エッセー』とモラリストの文学 第10回：17世紀：ラシーヌの演劇 第11回：18世紀：ジャン＝ジャック・ルソー『告白』と自伝文学 第12回：19世紀（1）：ヴィクトル・ユゴーと『レ・ミゼラブル』 第13回：19世紀（2）：ジョルジュ・サンドと女性の文学 第14回：20世紀（1）：アルベール・カミュ『異邦人』 第15回：20世紀（2）：パトリック・モディアーノと自己のアイデンティティ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】 担当者の指示に従うこと。 【後半】 予習・復習プリントを配布する予定。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	【前半】 出席30%、レポート70%で評価。 【後半】 平常点（質疑応答など）20%、予習・復習プリント提出40%、リアクションペーパー提出40%（試験・レポートは実施しない） 2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						
履修上の注意	私語厳禁。各講師の授業において、欠席は3回まで。 ※質問は授業の前後で受け付けます。 後半の担当者（西岡）は火曜3限も別の授業を担当するため、相談がある場合は授業後に受けつける。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸IB						
担当教員	松下 則子・浦部 依子					科目ナンバ－	A0105B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ロシア文化史と中国近現代文学概論						
授業の概要	【前半】担当者：松下 則子 19世紀から20世紀にかけてのロシアの文学とその翻訳のありかたについて概説する。個別に取り上げる作品としては、主に女性の生き方を考えさせるようなものをいくつか取り上げる。予定としては、近代ロシア文学からはプーシキン、ツルゲーネフ、チェーホフ、現代のロシア文学からはウリツカヤ、トカレワの作品を取り上げたい。時間が許せば、日本の文学作品のロシア語翻訳についても言及する。 【後半】担当者：浦部 依子 アヘン戦争(1840)を起点に辛亥革命や五・四運動を経て、それまでの中国文化の体系は大きく変化した。五・四以降、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、現代中国に託されたある文学方向を確実に形成していった。本講義は、清末から五・四運動(1919)前までの中国近代文学の状況と、五・四運動から新中国の成立(1949)までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 講義で取り扱う新しい文学の基礎は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点がある。それは、中国文学はおおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では、各時期の社会背景を概説したのち重要な作家を取りあげ、作品解釈や討論などを通して、時代の作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。						
到達目標	担当者：松下 則子 近現代のロシアの文学作品を通じて、ひとつのテーマに沿って作品を味わう楽しみを知り、かつ、作品を通して見えてくるロシア、ソ連の文化、生活を知ることにより、文学を通じた異文化交流の新しいありかたを探ることができる。 担当者：浦部 依子 中国近現代文学の概要と時代背景を領略して、その時々重要な作家と作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を築くことができる。						
授業計画	担当者：松下 則子 第1回：ロシア史概観と文化的背景 第2回：外国文学と翻訳 第3回：プーシキン『オネーギン』 第4回：ツルゲーネフ『はつ恋』 第5回：チェーホフ『かわいい女』 第6回：トカレワ『夏はまた来る』 第7回：ウリツカヤ『ソネチカ』 (取り上げる作品や作家は、変更することがあります。) 担当者：浦部 依子 *取り上げる作家や作品は、変更することがある。 中国文学史における近現代文学の位置と特質 第8回 清末の社会背景と文学(梁啓超「太平洋遇雨」・女流作家秋瑾「満江紅」) 第9回 清末の社会背景と文学(梁啓超「太平洋遇雨」・女流作家秋瑾「満江紅」) 第10回 中華民国期の社会背景と文学(文学の革命・五四新文化運動・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」) 第11回 中華民国期の文学(革命の文学・女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若) 第12回 (小テスト①実施) 中華民国期の文学(茅盾「子夜」・巴金「家」・老舍「駱駝祥子(らくだのシアンツ)」・女流作家たち：丁玲・張愛玲 cf. 女優 李香蘭) 第13回 中華人民共和国(新中国)成立期の社会背景と文学(毛沢東、文芸講話と人民文学・趙樹理) 第14回 文化大革命期の文芸(歴史戯曲 呉晗「海瑞罷官」・文化大革命・革命歌劇「白毛女」) 第15回 (小テスト②実施) 近現代文学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	担当者：松下 則子 ①シラバスに挙げた作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。 ②ロシアの歴史と文化について、文献やインターネットや映画から、積極的に予備知識を得て、授業に参加すること。 担当者：浦部 依子 授業前準備学習： ①各回の講義前に、コースバックを熟読しておく。(学習時間90分) ②取り上げる作家・作品・時代について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。(学習時間60分) 授業後学習：講義内容復習(学習時間60分)						

授業方法	浦部：文学講義（映像資料によるレビュー・討論を含む）
評価基準と評価方法	二人の担当者が出した評点の平均値によって決定する。 担当者：松下 則子 平常点50%（出席率、積極的な授業参加）、レポート50%で評価する。 担当者：浦部 依子 ・平常点50%（討論・発言と各回提出のワンミニッツペーパー・積極的な授業参加）、小テスト2回50%で、総合的に評価する。 ・小テストは、講義内容を問う客観と主観の問題から成り、約20分で提出する。 ワンミニッツペーパーや小テストなど、課題に対するフィードバックの方法：必要に応じて翌週時に対応する。
履修上の注意	私語厳禁。各担当者の授業において、欠席は3回まで。 担当者：松下 則子 ・出席を重視する。意見発表等、授業に積極的に参加してほしい。 *質問は授業の前後で受け付ける。 担当者：浦部 依子 ・出席を重視する。 ・講義で扱う「狂人日記」や他作品の訳書は、できる限り目を通しておくこと。 *質問は授業の前後で受け付ける。
教科書	担当者：松下 則子 プリントを配布 担当者：浦部 依子 ・コースバックを使用する。
参考書	担当者：松下 則子 手近に探せるものとしては、以下が挙げられる。 1) ツルゲーネフ『はつ恋』（神西清訳）、新潮文庫 2) チェーホフ『かわいい女・犬を連れた奥さん』（小笠原豊樹訳）、新潮文庫 3) チェーホフ『馬のような名字』（浦雅春訳）、新潮文庫 にも「かわいいひと」が収められている。 4) プーシキン『オネーギン』（池田健太郎訳）、岩波文庫604-1 5) ウリツカヤ『ソネチカ』（沼野恭子訳）、新潮クレストブック、2002年 など。 プーシキン、ツルゲーネフ、チェーホフについては、上記以外にも、異なる訳者による翻訳本が世界文学全集や各文庫に数多く収められている。 担当者：浦部 依子 参考文献と訳書（抜粋）： 1) 吉田 富夫『中国現代文学史 一九一五-四九』朋友書店 1997 ISBN-10: 4892810517 2) 藤井省三/大木康『新しい中国文学史』京都：ミネルヴァ書房1997 ISBN-10: 4623027503 * 第11部近現代の中国文学p102~ 3) 鲁迅著/竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店1981 ISBN-10: 400320252X 4) 山田敬三『鲁迅の世界』東京：大修館書店 1977 ISBN-10: 4469230278 5) 芦田肇主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉』東京：二玄社 2000 ISBN-10: 4544030366 6) 佐治俊彦主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈2〉』東京：二玄社 2000 ISBN: 4-544-03037-4 7) 白水紀子主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈3〉』東京：二玄社 2001 ISBN: 4-544-03038-2 8) 『中国現代文学選集』（全20巻）東京：平凡社 1962~1963 9) 『現代中国文学全集』（全15巻）東京：河出書房1954~1958 10) 丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』東京：東京堂出版1985, 1996 ISBN: 4490102011 11) 鲁迅作・竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店・岩波文庫1981年版 12) 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 13) 山田敬三『鲁迅—自覚なき実存』東京：大修館書店2008 ISBN-10: 4469232521

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡA						
担当教員	釣 馨・宮田 玲					科目ナンバー	A0206A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 前半担当者・釣馨のテーマは、「ヨーロッパ中世から17世紀までの古典文芸」 後半担当者・宮田玲のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	2名の教員によるオムニバス講義である。各担当者の授業の概要は以下の通り。 担当者 釣 ヨーロッパ中世から17世紀までの古典文芸の特徴を理解することを目的とする。ヨーロッパの古典文芸はギリシャ・ローマ文化とキリスト教文化という2つの大きな潮流に根を下ろしているが、授業では各時代の社会状況にも触れながら、テーマに沿って作品を概観する。 担当者 宮田 古代メソポタミア、シリア・パレスティナ、エジプトでは多くの文芸作品が生み出された。ここには、いかに古くから人類が文字を用い、文芸作品を残してきたかをみることができる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）と古代エジプトから代表的な物語をいくつか取り上げ、時代背景の解説をまじえて読みすすめていく。また、当時の文字である楔形文字やヒエログリフのほか、文芸作品のテーマとかかわる美術作品についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品の紹介と解説を受けて、テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。						
授業計画	担当者：釣馨 第1回 ヨーロッパの地域・歴史・文化 第2回 地獄から天国へ：ダンテ『神曲』 第3回 生きている人々の姿：ボッカチョ『デカメロン』 第4回 演劇と教会の対立：モリエール『ドン・ジュアン』 第5回 近代小説の萌芽：ピカレスク小説 第6回 ペローの『童話集』と新旧論争 第7回 講義のまとめ、筆記試験 担当者：宮田玲（全体を通して第8回目、後半部の第1回となる） 第8回 古代メソポタミアの風土と歴史。 第9回 エヌマ・エリシュ・バビロニア創造神話— 第10回 アトラ・ハシス—大洪水物語— 第11回 ギルガメシュ叙事詩—英雄ギルガメシュの生と死— 第12回 小テスト。ハンムラビ法典—古代の判決集— 第13回 古代エジプトの風土と歴史。 第14回 古代エジプトの神話。ヒエログリフ（エジプト聖刻文字）と芸術表現。 第15回 アテン賛歌—太陽神信仰—						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当者 釣 配布資料の熟読、前回の内容をまとめる。（所要時間：30分） 担当者 宮田 配布資料の熟読、前回の内容をまとめること。（所要時間：30分）						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	担当者 釣 毎回講義の最後時間に時間を取るのので、指定の用紙に講義内容のまとめと自分の意見を書く。最終授業で筆記試験を行う。平常点50%（指定の用紙に書くまとめと意見）＋筆記試験50% 担当者 宮田 レポート約60%：授業で取り上げた内容にかかわる課題をいくつか提示して、授業の理解度を評価する。 平常点約40%：文芸作品の朗読による授業参加と小テストに加え、時折レスポンスペーパーの提出を求める。 レスポンスペーパーや質問等へのフィードバックは次の授業内で行なう。						
履修上の注意	担当者 釣 まとめと意見を書く指定の用紙を配布する。 担当者 宮田 補足のプリントを配布する。出席者のみ受け取ることができる。						

教科書	担当者 釣 講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。 担当者 宮田 講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。随時、補足のプリントを配布する。
参考書	授業時に指示する。

授業外における 学習（準備学習 の内容・時間）	【前半】担当者：浦部 依子 授業前準備学習： ① 各回の講義前に、コースバックを熟読しておく。（学習時間：90分） ② 取り上げる戯曲について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。（学習時間：90分） 授業後学習： 戯曲に表現されたものとヒロインの主体意識について考察する（学習時間60分） 【後半】担当者：木下 昌巳 配布資料「世界の文芸Ⅱ」を授業前に熟読しておくこと
-------------------------------	---

授業方法	【前半】担当者：浦部 依子 文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む）と演習（グループによる名場面の寸劇発表） 【後半】担当者：木下 昌巳 講義と悲劇上演の鑑賞（DVDによる）
評価基準と評価方法	【前半】担当者：浦部 依子 レポート 60%（これに加えて小テストを実施することがある） 平常点 40%（討論・発言・ワンミニツペーパー・文学の表現） ワンミニツペーパーなど課題に対するフィードバックの方法：原則的に翌週時に対応する。 【後半】担当者：木下 昌巳 レポート70%、平常点30%。
履修上の注意	【前半】浦部 依子 ・出席を重視する。・前半後半の2つの授業回数15回中、原則として3分の1以上の欠席者は受講・受験不可。 ＜重要：レポート提出に関する注意＞ ①・講義で扱った戯曲1つ又は複数について、任意のテーマで述べる。或いは、戯曲に関する自由なトピックも可。 ・A4横書き 両面で1～3ページにまとめ、なるべく両面印刷の上、授業中に指示した指定日に教務へ提出する。 ・フォントは自由。長編レポートはフォントを小さくする。 ・講義名、タイトル、学籍番号、氏名を明記すること。 ② あらすじは書かないこと。自分の所見や分析を中心に書くこと。ネット上の他者の文転用は、剽窃となる事があり充分注意する。自分の文と他者の文（引用文）を明確に区別し、引用範囲が一見してわかるようにする。引用には出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、いずれもを減点することがある。 ※ 質問は、授業の前後で受け付けます。
教科書	【前半】浦部 依子 ・コースバックを使用する。
参考書	【前半】浦部 依子 ・中国文学全般の参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 （中国語）章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 西廂記（せいしょうき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂，1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社，1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売），1894 琵琶記（びわき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成 文学部第9巻//a東京：国民文庫刊行會，1923 2『國譯琵琶記』鹽谷温訳註 国訳漢文大成 文学部第35冊（第9巻の3）東京：国民文庫刊行會，1923 3『中国古典文学全集』戯曲集 第33巻 東京：平凡社，1959 牡丹亭（ぼたんてい） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 2『還魂記』岩城秀夫訳（中国古典文学大系・戯曲集・下）東京：平凡社，1971/1994 占花魁（おいらんを独り占め） 1『売油郎独占花魁』『今古奇観・上』中国古典文学大系37千田九一他訳 東京：平凡社，1970/1994 長生殿（ちようせいでん） 1『長生殿』塩谷温訳（『国訳漢文大成 文学部17』所収 国民文庫刊行会1923） 2『長生殿—玄宗・楊貴妃の恋愛譚』洪昇著、岩城秀夫訳 東京：東洋文庫2004 【後半】担当者：木下昌巳 ソポクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫） プラトン著 森進一訳『饗宴』（新潮文庫）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	セリフ表現と演技法／文芸との触れ合いⅡA						
担当教員	岩崎 正裕					科目ナンバ－	A22030
学期	前期／1st semester	曜日・時間	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲を読み込み、台詞を身体化する。						
授業の概要	戯曲の読解から、次第に演劇を立ち上げる。						
到達目標	演技における働きかけと、他者の受容からコミュニケーション成立への手がかりを模索する。						
授業計画	1. 言葉と身体について 2. 近代戯曲「かもめ」概論 3. かもめ一幕前半の音読と読解 4. かもめ一幕後半の音読と読解 5. かもめ二幕前半の音読と読解 6. かもめ二幕後半の音読と読解 7. かもめ三幕前半の音読と読解 8. かもめ三幕後半の音読と読解 9. かもめ四幕前半の音読と読解 10. かもめ四幕後半の音読と読解 11. 演技空間の認識 12. 目的ある行為と台詞 13. 場面を作る1 14. 場面を作る2 15. 振り返りと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	台本から離れて、台詞を言える準備が必要な場合がある。						
授業方法	主に座学形式で進行するが、立つ座る動くなどの行為が要求される。						
評価基準と評価方法	読解と演技的な工夫を評価する。演技において正解というものはないので積極性が問われる。						
履修上の注意	立つ座る動くなどの行為が容易に出来る服装での参加が望ましい。						
教科書	「かもめ・ワーニャ伯父さん」チェーホフ 神西清[訳] 新潮文庫						
参考書	特になし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ－	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	文芸作品の分析と研究						
授業の概要	各自の関心に応じて、文芸作品（メディア、サブカルチャー、文学、映画、演劇など）を取り上げ、自分の考えを論理的な文章にまとめる練習を行う。						
到達目標	文芸作品を自らの力で解釈し、先行研究を踏まえながら、独自の視点から分析することができる。						
授業計画	1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導 2. 先行研究の探し方、発表の順番の決定 3. 「はじめに」とテーマの説明（1） 4. 同（2） 5. 同（3） 6. 同（4） 7. 「第1章 具体例の紹介」の発表（1） 8. 同（2） 9. 同（3） 10. 同（4） 11. 「第2章 定説と先行研究の紹介」（1） 12. 同（2） 13. 同（3） 14. 前期のまとめ 夏休みの課題： テーマに関連した文献を読む。 15. 夏休みの課題報告（1） 16. 同（2） 17. 「第3章 定説に対する反論」の発表発表（1） 18. 同（2） 19. 同（3） 20. 同（4） 21. 「第4章 本論の発表」（1） 22. 同（2） 23. 同（3） 24. 同（4） 25. 「第5章 結論」の発表（1） 26. 同（2） 27. 同（3） 28. 同（4） 29. レジメの指導 30. 口頭試問 1 31. 口頭試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマに関連した作品と批評、研究論文を読む。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表（25％）、平常点（25％）、卒業論文の内容（50％）						
履修上の注意	資料の収集、先行文献の研究など、資料調査を重視する。						

教科書	なし
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	現代メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導をします。						
到達目標	自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることができる。						
授業計画	前期 1 インTRODakション 2 卒論の書き方①： 卒論とは？ 3 卒論の書き方②： 資料収集の方法 4 卒論の書き方③： アウトラインの作成 5 卒論の書き方④： パラグラフを書く 6 卒論の書き方⑤： 文章の形式を守る 7 卒論の書き方⑥： 文章を推敲する 8 論文講読① 9 論文講読② 10 卒論テーマ・アウトラインの発表① 11 卒論テーマ・アウトラインの発表② 12 卒論テーマ・アウトラインの発表③ 13 卒論テーマ・アウトラインの発表④ 14 卒論テーマ・アウトラインの発表⑤ 15 夏休み期間に向けた全体指導 後期 16～20 研究状況の報告 21～28 個別指導による論文作成 29～30 提出に向けた最終確認 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	卒業論文を書き上げるためには、授業外での文献探索、資料収集、文献精読が必須です。						
授業方法	演習および個別指導						
評価基準と評価方法	卒業論文の内容80%、平常点20%、で評価します。						
履修上の注意	教員への進捗状況の報告、相談などコミュニケーションを欠かさないこと。 資料提供のために松蔭manabaを積極的に活用します。						
教科書	授業中に指示します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバー	A04070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導。						
授業の概要	演劇や映画を中心に個々人が関心のあるテーマを選んで問いをたて、それに関する資料収集、研究そして卒業論文の作成指導を行う。						
到達目標	卒業研究のテーマを決定して必要な情報を収集し、ディスカッションや発表を通して理解を深め、卒業論文をまとめあげる。						
授業計画	前期 1. 卒業論文作成の進め方 2. 卒業論文の書き方・作成の仕方① 3. 卒業論文の書き方・作成の仕方② 4～9. 卒業論文に関する個人発表①（文献の要約など） 10～14. 卒業論文に関する個人発表②（主要テキストや上演作品などの選定） 15. 問題の絞り込みと夏休み期間の研究計画 後期 16. 夏休み期間の研究状況の報告 17～20. 中間発表 21～25. 個別指導による研究の展開と執筆 26. 初稿の提出 27～28. 提出前点検 29～30. 提出論文の講評、再提出指導						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	文献や資料の検索、調査などをしっかり行う。ディスカッションでの意見、教員の指導を積極的に利用して論文作成を進める。						
授業方法	演習形式及び個別指導。						
評価基準と評価方法	卒業論文80% 取り組みの姿勢20%。						
履修上の注意	できる限りの時間を卒業論文に充て、粘り強く取り組む姿勢が必要である。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて決定していく。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	東西芸術と文化／文芸講読ⅠB						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A12020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画と音楽の鑑賞法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の、江戸時代の絵画と18・19世紀ヨーロッパの音楽を論じた文芸評論を、発表形式で精読する。						
到達目標	ゲエテとモーツァルトの関係について説明できる。 狩野派について説明できる。 山水画について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画、発表者の決定 2. 評論「モーツァルト」(1) ゲエテとモーツァルト 3. (2) ゲエテとベートーベン 4. (3) 「ファウスト」 5. 評論「鉄斎」(1) プロフィール 6. (2) 南画・文人画 7. (3) 風景画家としての鉄斎 8. 評論「光悦と宗達」(1) 光悦のプロフィール 9. (2) 琳派と歌巻 10. (3) 古今和歌集と新古今和歌集 11. (4) 宗達のプロフィール 12. (5) 桃山期の美術と狩野派 13. 評論「雪舟」(1) プロフィール 14. (2) 「山水長巻」 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	美術展に通うこと。						
授業方法	発表は、小林秀雄の評論に出てきた画家や文学者、音楽家の経歴を調べ、有名作品を紹介する形で行う。						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％						
履修上の注意	欠席5回で失格とする。						
教科書	小林秀雄『モーツァルト・無常ということ』、新潮文庫、ISBN978-4-10-100704-5 旧版は注がついていないので、2006年以降発行の改版を購入すること（古本で購入する場合は注意）。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	東西芸術の文化史／比較文化ⅠB						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A32020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	異質な文化が会うとき。						
授業の概要	「芸術」という概念はキリスト教西欧で育まれ、西欧主導で発展したと言える。「西」から見て異質なものは「東」と呼ばれ、その異質なものが同士が会うとき、新たな文化的展開の可能性が生まれる。「西」はどのようにオリエント、東方、東洋と対峙し、日本のわたしたちはどのように西洋を受け止め、向き合ってきたのかを、幾つかの歴史的場面を取り上げ、検証する。						
到達目標	わたしたちのものの見方が自分たちが生まれ育った文化・伝統によって裏打ちされていること、異なる文化・伝統との出会いがわたしたちのものの見方を変化させてきたこと、そしてそのような出会いが今後の新たな文化的展開へつながりうることに気づくことができる。						
授業計画	第1回 導入（授業ガイダンス） 第2回 「東」と「西」 第3回 ギリシャ的世界観とローマ的世界観 第4回 キリスト教世界における東方と西方 第5回 可視と不可視 第6回 まだ見ぬ東方世界へ 第7回 日本と南蛮 第8回 旅と景色－ピクチャレスク－ 第9回 ロマン主義－エキゾチックなものへ－ 第10回 他者と出会う 第11回 シノワズリー・ジャポニズム 第12回 プリミティヴィズム－間文化的な問い－ 第13回 西洋美術を纏う－東洋のわたし－ 第14回 映画の中の異文化 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることに。 また授業で興味を持った事柄・作品についてさらに掘り下げて調べてみることに。 授業内で取り上げるテーマについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することもあり。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もあり。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	トピックの文化史／比較文化ⅡⅡA						
担当教員	植 朗子					科目ナンバ－	A32040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジー作品と社会における「植物」の不思議－植物にまつわる比較文化論						
授業の概要	ファンタジー作品や、昔話における、「植物」の不思議をテーマにします。『ハリーポッター』などの児童文学、『ラプンツェル』などのメルヒェンをはじめ、物語には奇妙な「植物」が魔法のアイテムとして登場します。実際の社会においても、たとえばドイツにおいては、ハーブティーなどの薬用効果は認められ、病を癒す薬として使用されています。これらの「植物」の不思議について学びましょう。（映像作品の視聴、薬用植物として使用されるハーブ等を見てもらうことがあります。）						
到達目標	不思議な「植物」が出てくる、映画や文芸作品を見ることからはじめ、モチーフを通して作品を分析することができるようになることを目標とします。 それぞれの作品の背景にある文化を比較し、理解することができます。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 不思議な「植物」と植物民俗学 第3回 映画における不思議な「植物」①（『ラプンツェル』） 第4回 メルヒェンにおける不思議な植物① 第5回 不思議な「植物」と迷信 第6回 不思議な「植物」と植物分類学 第7回 映画における不思議な「植物」②（『ハリーポッター』） 第8回 メルヒェンにおける不思議な植物②（マンドラゴラ他） 第9回 伝説・説話における不思議な植物① 第10回 絵本における不思議な植物 第11回 植物の薬用効果と文化①（料理） 第12回 植物の薬用効果と文化②（ハーブティー） 第13回 架空の植物と民間伝承 第14回 まとめ 第15回 テストと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	配布した資料をよく読み、疑問点は講義の中で質問して下さい。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト70％ 平常点30％						
履修上の注意	授業中は授業に関係のない物を机の上に置かないように注意して下さい。遅刻は2回で欠席扱いとなります。理由のある遅刻、欠席は、差し障りにない範囲で申し出て下さい。						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代演劇／文芸講読ⅥA						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A12070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上演に結びつけて戯曲を読む力をつける。						
授業の概要	日本の代表的劇作家井上ひさしの『天保十二年のシェイクスピア』を読む。場面ごとに戯曲を分析し、劇上演でどのように表現されているかについて二つの映像記録、井上ひでのり演出作品（2002年）と蜷川幸雄演出作品（2005年）を参考に検証していく。また二つの作品の舞台演出にみられる俳優の演技や舞台美術などを比較してそれぞれの作品の特徴を分析し、それぞれの作品のテーマの扱いの違いについても考えてみる。						
到達目標	舞台上演を前提とした戯曲の特徴についての理解を深め、上演分析をするための基礎的能力を養う。						
授業計画	1. 作品の背景とその内容 2. 戯曲にある約束事 3. 第1幕1～2とその上演 4. 第1幕3～4とその上演 5. 第1幕5～7とその上演 6. 第1幕8～11とその上演 7. 第1幕12～13とその上演 8. 第2幕14～15とその上演 9. 第2幕16～17とその上演 10. 第2幕18～19とその上演 11. 第2幕20～21 12. まとめ①象徴としての人物 13. まとめ②劇におけるサスペンス 14. まとめ③言葉をアクションに 15. まとめ④テーマと批評						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習						
授業方法	講義を中心に、ビデオを鑑賞しディスカッションも行う。						
評価基準と評価方法	授業におけるディスカッションへの参加度（50％）期末のレポート（50％）						
履修上の注意	履修上の注意：正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目							
科目名	日本文芸と映画／文芸講読ⅡⅡB							
担当教員	石塚 洋史					科目ナンバー	A12040	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	原作のある日本の映画作品の鑑賞と、作品の分析、原作との比較を通して、映画と文芸の表現の違いについて考察します。							
授業の概要	本講義では原作のある日本の映画作品を鑑賞し、作品の分析、原作との比較を行います。文学作品が映画化された際、その文学作品の内容が全て映像となるわけではなく、またその文学作品にない要素が映画の中に加えられることもあります。そしてそれ以上に重要なのは、語り方そのものの変化です。文学作品の語り口に、映画が及ばないことは少なくありません。しかし時には映画は文学作品とは別次元の表現によって、観客の心を捉えます。本講義では映画ならではの表現の理解に重点を置きます。							
到達目標	映画作品を分析的に鑑賞する能力を育成することができます。 映画作品とその原作を比較し、両者の表現の違いを理解し、芸術に関する視野を拡大することができます。							
授業計画	第1回 視点と話法1 映画の技法 第2回 視点と話法2 映画の構成 第3回 視点と話法3 原作との比較 第4回 社会の描き方1-1 映画の技法 第5回 社会の描き方1-2 映画の構成 第6回 社会の描き方1-3 原作との比較 第7回 台詞1 映画の技法 第8回 台詞2 映画の構成 第9回 台詞3 原作との比較 第10回 社会の描き方2-1 映画の技法 第11回 社会の描き方2-2 映画の構成 第12回 社会の描き方2-3 原作との比較 第13回 家族の描き方1 映画の技法 第14回 家族の描き方2 映画の構成 第15回 家族の描き方3 原作との比較							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習 授業計画の「映画の技法」の回の授業前：「視点と話法」、「社会の描き方」、「台詞」、「家族の描き方」それぞれのテーマに関して、過去に鑑賞した映画の中で印象に残っている表現について自分なりに考えて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「映画の構成」の回の授業前：前回の授業内に鑑賞した映画について、今後の構成を予測して下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の回の授業前：できる限り原作を読み、映画との比較を自分なりに行ってください（学習時間：90分）。 授業後学習 授業計画の「映画の技法」、「映画の構成」の回の授業後：授業内に鑑賞した映画に関して、自分なりの疑問点、注目点をまとめて下さい（学習時間：90分）。 授業計画の「原作との比較」の授業後：授業内に鑑賞した映画と原作とを比較し、その表現の違いについてまとめて下さい（学習時間：90分）。							
授業方法	講義							
評価基準と評価方法	平常点50％：授業内に提出するレポートの内容。作品の分析と自分なりの考えが記述されているかどうかを評価します。 期末レポート50％：作品の表現について自分なりの考えが記述されているかを評価します。 課題に対するフィードバックの方法 授業内に提出するレポート：次回の授業で紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。ただし第15回に提出されたレポートについては、松蔭manabaで紹介し、疑問点についてはできる限り答えます。 期末レポート：レポートの解説を松蔭manabaで告知します。							
履修上の注意	授業内に提出するレポートと期末レポートを重視します。授業内に提出するレポートには、疑問点を書いて下さっても構いません。授業内に提出するレポートについては、受講者に紹介することによって授業が充実すると担当教員が判断したものについては、匿名で紹介し、疑問点についてはできる限りお答えします。ただし匿名であっても記述者が紹介してほしい場合は紹介しませんので、その旨を記述して下さい。							
教科書	なし。							

参考書	授業内に適宜紹介します。
-----	--------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術の基礎						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	A71020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美術の歴史や制作の基礎的な考え方に触れる。						
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気づく。この授業では、美術の歴史や制作の基礎的な考え方に触れ、各自の美術観を養うことを目指す。						
到達目標	美術制作の基礎的な作業を通じて、美術の歴史やその社会的・思想的背景への興味を深めることができる。						
授業計画	第1回 導入（授業ガイダンス）、輪郭を取る 第2回 大切なかたち1 -かたちを描く- 第3回 大切なかたち2 -触覚を意識する- 第4回 デッサン1 -目と手を結ぶ- 第5回 デッサン2 -空間について- 第6回 イラストレイト1 -視覚に翻訳する- 第7回 イラストレイト2 -世界観を描く- 第8回 ルールをつくる -世界観の構築- 第9回 ドローイング1 -イメージを広げる- 第10回 ドローイング2 -イメージをつなぐ- 第11回 アニメーション1 -動きを分解する- 第12回 アニメーション2 -再構築する- 第13回 アニメーション3 -息を吹き込む- 第14回 痕跡を残す -写真の始まり- 第15回 まとめと展望 -作品を企画する-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみることに。 また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみることに。 授業内で取り上げるテーマなどについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、制作作業も取り入れて授業を進める。 スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。 個人もしくはグループ単位での制作・発表や、コンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの私的使用（授業内で使用する場合はある）、授業中の出入りは慎むこと。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問などは授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	ファンタジーの世界						
担当教員	釣 馨					科目ナンバー	A72090
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの起源と構造、および現代のジャンルとの関わりについて						
授業の概要	ファンタジーは、神話や伝承から得た着想をテーマに掲げ、魔法などの空想的な要素が一貫性のある設定として導入されている。一方でファンタジーは架空の世界にもかかわらず、その世界には作品が書かれた地域やその時代の文化や思想が背景にある。それらを小説や映画のファンタジー作品の中に読み取り、整理する。						
到達目標	ファンタジーの起源や構造、またそれらが時代を反映しながらどのように変化してきたのかを理解できる。またファンタジーが映画やゲームのような新しいジャンルにどのように浸透しているのかを理解できる。最終授業の筆記試験でファンタジーに対する自分なりの理解と考えをまとめることができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ファンタジーとは何か(1) 定義 第3回 ファンタジーとは何か(2) 中世とゲーム 第4回 近代以前のファンタジー 第5回 近代のファンタジー(1)『水の子』『不思議の国のアリス』 第6回 近代のファンタジー(2)『指輪物語』『ナルニア国物語』 第7回 「ハリー・ポッター」シリーズ(1) 作品の背景と特徴 第8回 「ハリー・ポッター」シリーズ(2) 小説と映画、英語と日本語の違い 第9回 「ハリー・ポッター」シリーズ(3) 死のテーマ 第10回 『ゲド戦記』(1) 作品の背景と特徴 第11回 『ゲド戦記』(2) 他作品への影響 第12回 『千と千尋の神隠し』(1) 作品の背景と特徴 第13回 『千と千尋の神隠し』(2) 少女のサバイバル 第14回 現代とファンタジー 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	あらかじめ参考文献をどれか1冊読んでおくことが望ましい。また授業で扱う映画は全体を見る時間がないので、授業が終わってからでも各自で作品を通して見ておくことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点50点(毎回の授業の最後に簡単なまとめと感想を書いてもらいますが、それで評価します)と筆記試験50点。						
履修上の注意	出席を重視します。						
教科書	教科書は使用せず、随時プリントを配布します。						
参考書	小谷真理『ファンタジーの冒険』、脇明子『魔法ファンタジーの世界』、アーシュラ・K・ル＝グウィン『夜の言葉 ファンタジー・SF論』						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	フォトグラフィー・シネマトグラフィー／文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之					科目ナンバ－	A22060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察します。まず最初にピンホールカメラを製作し撮影をおこない、写真の原理について学びます。その後、デジタルカメラを使用し撮影に関する基本的な技術を習得します。また、大型カメラでの撮影も体験し、写真術に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。						
到達目標	1. カメラの原理および基本的な操作方法を理解できる 2. 美術作品を理解できる						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習①（ピンホールカメラにて撮影をおこなう） 第4回 撮影の基礎知識を学ぶ 第5回 撮影実習②（被写界深度について学ぶ） 第6回 撮影実習③（シャッタースピードの効果について学ぶ） 第7回 画像調整ソフトの使用説明 第8回 blogの作成及びweb上への画像掲載 第9回 大型カメラの使用説明 第10回 撮影実習④（大型カメラ/ビュータイプを使用して撮影をおこなう） 第11回 撮影実習⑤（大型カメラ/フィールドタイプを使用して撮影をおこなう） 第12回 撮影実習⑥（デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう） 第13回 作品集鑑賞①（興味がある作家を探す） 第14回 作品集鑑賞②（レポート作成に必用な資料を探す） 第15回 画像編集及びレポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自で被写体を探し撮影をおこない、その写真はblogで発表します。						
授業方法	実習及び演習						
評価基準と評価方法	「課題20％レポート20％平常点60％(実習への参加度)」 この授業は実習が過半数を占めます。欠席をしたら課題をおこなうことができず評価が下がることへ繋がりますので欠席しないよう心掛けて下さい。						
履修上の注意	1. 履修の対象者 写真に興味がある人を対象とします。特に美術に関心があることが望ましい。 2. 履修上の注意 12回以上の出席がなければ単位の修得資格を失います。						
教科書	必用な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学の基礎						
担当教員	東野 泰子・武田 悠希					科目ナンバ	A71030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	【前半】 日本の古典文学を現代的な視点から読むことを通して、文学を読むための着眼点にどのようなものがあるかを考える。 【後半（8回目以降）】 後半は、江戸時代から現代にかけての日本文学の流れを概観する。						
授業の概要	【前半】現代において、新たに生み出されるさまざまな日本の文化・文芸には、古典文学を発想の源としているものが少なくない。日本の古典文学の主要作品の幾つかを読み解くことによって、現代の文芸に影響を与え続けている古典文学の特性について考える。さらに、文学作品を漫然と読むのではなく、話形・話者といった観点から分析することを試みる。 【後半（8回目以降）】近世以降の日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識や視点の習得を目的とする。文学史だけでなく、背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
到達目標	【前半】日本の主要な古典文学作品について、基礎的な事項を説明することができる。 古典文学作品が現代の日本文化にどのような影響を与えているか、考えを述べることができる。 【後半（8回目以降）】 近世以降の日本の文学を読解するために必要な知識や視点を知り、興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。 近世以降の文学史の背景と流れを授業で紹介する視点に添って説明することができる。						
授業計画	【前半】 第1回：物語を読み解く視点について 昔話の源流 1－浦島太郎 第2回：昔話の源流 2－かぐや姫 第3回：貴種流離譚 1－ヤマトタケル 第4回：貴種流離譚 2－在原業平 第5回：貴種流離譚 3－光源氏 第6回：物語の語り手 1－伊勢物語・土佐日記 第7回：物語の語り手 2－源氏物語・平家物語 【後半】 第8回 近世から近代にかけての日本文学への視点と導入 第9回 絵入小説の系譜 草双紙 明治期戯作 第10回 明治以降の雑誌文化 博文館 第11回 児童文学の黎明 第12回 外地と文学 第13回 現代文学への視点 女性作家 メディアミックス 第14回 8回以降のまとめと筆記試験 第15回 8回以降の総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【前半】 授業内容や自分なりの疑問点を授業後にまとめておく。 また、調べてきて欲しいこと（辞書を引く等）を授業中に指示する場合がある。 それらについて、毎時、授業のはじめに書いて提出してもらう。 【後半（8回目以降）】 近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。 したがって講義内容についての理解をより深めるためには、授業中に紹介した参考文献を授業後に参照するなど、授業外の学習が求められる。						
授業方法	【前半】 おもに講義形式をとる。ほぼ毎時、前回授業のまとめや小テストを課す。 【後半（8回目以降）】 講義形式で行う。毎回コメントシートの提出を課す。						
評価基準と評価方法	【前半】平常点（出席状況、まとめの提出、小テスト）60％ 期末レポート40％ 【後半（8回目以降）】日常的な授業に対する取組状況等の評価60％、筆記試験40％で評価する。						
履修上の注意	【前半】 2／3以上の出席回数に満たない者は、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用は不可。電子辞書は使用可。 毎回、何か書いて提出してもらい、それを平常点とするので、出席することが重要。 質問は授業終了後、教室等で受け付けます。 【後半（8回目以降）】						

履修上の注意	第13回に予定している試験には、授業で配布したプリントのみ持ち込み可とする。 ※授業時間外の連絡方法：授業終了後教室で対応する。
教科書	【前半】 教科書は指定しない。毎時、資料を配付する。 【後半（8回目以降）】 同様。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸創作法／文芸との触れ合いⅠA						
担当教員	木下 昌輝					科目ナンバー	A22010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	創作の基礎を身につける。						
授業の概要	小説を創作するために必要な物語の構成、描写、人物造形などの基礎を学びます。また読書会や課題の合評会などを行い、他者の作品をいかに読み込み批評するかの方法を学び、それを創作に活かします。						
到達目標	文芸作品を創作、鑑賞する上での基礎を習得し、掌篇作品を執筆できる。						
授業計画	第01回 全体説明 自分の好きな小説について 第02回 原稿のルールについて、物語の構造とレシピの説明 A→Bの物語の変化を説明 第03回 冒頭描写の訓練 第04回 前回講義課題の発表と講評 第05回 物語を筆写する 第06回 喜怒哀楽の瞬間の発表 第07回 喜怒哀楽の瞬間の講評 第08回 タイトルのつけかた 第09回 会話劇の発表 第10回 会話劇の講評 第11回 アイデアの考え方 第12回 場面を創る 第13回 嘘をテーマにした課題発表 学生による発表 第14回 嘘をテーマにした課題発表 講師による評価 第15回 嘘をテーマにした課題発表 作者による所感						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題にしたがって、400字～2000字の作品を制作し、期間内に提出、講義内で学生による発表と講師講評。						
授業方法	講義および課題提出。提出課題を生徒が朗読し、講師が講評します。						
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点。課題の出来栄えが50点。						
履修上の注意	平常点は授業態度の他に、課題の〆切の遵守も重視します。						
教科書	特になし。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習Ⅰ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ	A53010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、サブカルチャー現象（クールジャパン、ヒット曲、キャラクターetc）を分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. クールジャパン (1) 3. " (2) 4. 外国人が見た日本 5. ヒット曲の崩壊 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. サザンオールスターズ (1) 9. " (2) 10. SNOOPY とアメリカ文学 (1) 11. " (2) 12. 仮面ライダー (1) 13. " (2) 14. " (3) 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの課題報告 2. 発表例の提示 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲームetc）に常に気を配る。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点 5 6 %、テスト 4 4 %						
履修上の注意	出席重視。発表を義務とする。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に指示する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習Ⅱ						
担当教員	柊井 智英					科目ナンバー	A53020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの上演での役割やその歴史などの基本知識を習得し、卒業研究に向けて各自のテーマを設定できる土台を作っていく。						
授業の概要	秋に上演されるシルク・ドゥ・ソレイユ『キュリオス』の観劇レポート作成に向けて、サーカスや大道芸の歴史と発展、あるいはシルク・ドゥ・ソレイユについてのテキストを読み、さらにこれまでのシルク・ドゥ・ソレイユの公演を演技、演出、ストーリー構成、そして舞台美術や舞台効果などの視点から分析する基本知識の獲得してゆく。後期の途中からは各個人の関心のあるテーマについて発表を行う。						
到達目標	演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に向けたテーマ設定ができるようになる。						
授業計画	1. イントロダクション 2. サーカスというジャンルについて。① 3. サーカスというジャンルについて。② 4. 大道芸というジャンルについて。① 5. 大道芸というジャンルについて。② 6. シルク・ドゥ・ソレイユについて。① 7. シルク・ドゥ・ソレイユについて② 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評 11. 劇場見学（兵庫県立ピッコロシアターを予定） 12. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演技とパフォーマンス 13. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：物語とテーマ 14. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：舞台美術 15. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演出 16. 後期イントロダクション 17～21. 4年生による卒論についての中間発表 22. 観劇実習にむけて 23. 観劇実習（シルク・ドゥ・ソレイユ『キュリオス』を予定） 24. 観劇した作品の批評 25～29. 3年生の発表（戯曲や論文、または映像作品について） 30. まとめ ※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておく。 個人発表の準備						
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり						
評価基準と評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。						
履修上の注意	最低2回は学外で演劇の観劇を行う。受講生は入場料・交通費等実費負担の必要がある。また、観劇実習は授業時間を別の時間帯に振り替えて実施する予定である。正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						

参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリカン社、2007
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習V						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A53050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。 そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。 前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。						
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、先行研究を踏まえたうえで、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・プロジェクトを通じて、アイデアを表現するための実践的なスキルを習得します。						
授業計画	前期 1 インタロクショナル／テキスト選定、発表者割り当て 2～4 テキスト講読 5～9 4回生による研究発表とディスカッション 10～14 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション 15 まとめ 後期 16 インタロクショナル／テキスト選定、発表者割り当て、ゼミプロジェクトの企画 17～21 4回生による研究発表とディスカッション 22～29 ゼミプロジェクト 30 まとめ ・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりしてもらいます。 その他、ゼミプロジェクトの準備など。						
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。						
評価基準と評価方法	発表（制作物）70%、平常点（出席・討議への参加度）30%、で評価します。						
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 ゼミプロジェクトやフィールドワーク等、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中に指定します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅰ						
担当教員	打田 素之					科目ナンバ	A64010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、サブカルチャー現象（クールジャパン、ヒット曲、キャラクターetc）を分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. クールジャパン (1) 3. " (2) 4. 外国人が見た日本 5. ヒット曲の崩壊 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. サザンオールスターズ (1) 9. " (2) 10. SNOOPY とアメリカ文学 (1) 11. " (2) 12. 仮面ライダー (1) 13. " (2) 14. " (3) 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの課題報告 2. 発表例の提示 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	サブカルチャー現象（マンガ、アニメ、ゲームetc）に常に気を配る。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点 5 6 %、テスト 4 4 %						
履修上の注意	出席重視。発表を義務とする。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に指示する。

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅱ						
担当教員	柗井 智英					科目ナンバー	A64020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇研究の様々な要素、すなわち俳優、戯曲、演出、舞台美術などの分析・検証を行うための資料収集の仕方 やその方法論についてさらに具体的に学び、卒業研究に役立つ力を養成する。						
授業の概要	秋に上演されるシルク・ドゥ・ソレイユ『キュリオス』の観劇レポート作成に向けて、サーカスや大道芸の歴史と 発展、あるいはシルク・ドゥ・ソレイユについてのテキストを読み、さらにこれまでのシルク・ドゥ・ソレイユ の公演を演技、演出、ストーリー構成、そして舞台美術や舞台効果などの視点から分析する知識を獲得してゆく 。後期の途中からは各個人の関心のあるテーマについて発表を行う。						
到達目標	演劇や映像作品の分析。検証能力を高め、卒業研究に役立つ力を身につける。						
授業計画	1. イントロダクション 2. サーカスというジャンルについて。① 3. サーカスというジャンルについて。② 4. 大道芸というジャンルについて。① 5. 大道芸というジャンルについて。② 6. シルク・ドゥ・ソレイユについて。① 7. シルク・ドゥ・ソレイユについて② 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評 11. 劇場見学（兵庫県立ピッコロシアターを予定） 12. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演技とパフォーマンス 13. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：物語とテーマ 14. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：舞台美術 15. シルク・ドゥ・ソレイユの作品分析：演出 16. 後期イントロダクション 17～21. 4年生による卒論についての中間発表 22. 観劇実習にむけて 23. 観劇実習（シルク・ドゥ・ソレイユ『キュリオス』を予定） 24. 観劇した作品の批評 25～29. 3年生の発表（戯曲や論文、または映像作品について） 30. まとめ ※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。						
授業外における 学習（準備学習 の内容・時間）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておく。 個人発表の準備						
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり						
評価基準と 評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。						
履修上の注意	最低2回は学外で演劇の観劇を行う。受講生は入場料・交通費等実費負担の必要がある。また、観劇実習は授業 時間を別の時間帯に振り替えて実施する予定である。正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						

参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリカン社、2007
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A64050
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット、ソーシャルメディア）や広告・広報、サブカル（漫画やアニメ）、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。 そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。						
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、先行研究を踏まえたうえで、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・プロジェクトを通じて、アイデアを表現するための実践的なスキルを習得します。						
授業計画	前期 1 インタロクショナル／テキスト選定、発表者割り当て 2～4 テキスト講読 5～9 4回生による研究発表とディスカッション 10～14 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション 15 まとめ 後期 16 インタロクショナル／テキスト選定、発表者割り当て、ゼミプロジェクトの企画 17～21 4回生による研究発表とディスカッション 22～29 ゼミプロジェクト 30 まとめ ・テキストは、教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりしてもらいます。 その他、ゼミプロジェクトの準備など。						
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。						
評価基準と評価方法	発表（制作物）70%、平常点（出席・討議への参加度）30%、で評価します。						
履修上の注意	自分が発表する日に無断欠席をすることは厳禁。 ゼミプロジェクトやフィールドワーク等、授業外における活動が生じる場合でも積極的に取り組むこと。 なお、フィールドワークを実施する場合、費用は実費負担。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	授業中に指定します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡA／（東方キリスト教美術）						
担当教員	宮本 憲					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	東方キリスト教美術の歴史と主題を理解する						
授業の概要	ルネサンス以降、写実的な美術様式を発展させた西方キリスト教と異なり、ルネサンスを経験しなかった東方正教会では、中世以来の形式化され象徴性に富む宗教絵画の伝統が保たれてきました。これらの絵画は単なる「作品」ではなく、「神の国」の表現として礼拝においても重要な位置を与えられています。本講座では、このような東方正教会独自の美術の特徴や歴史を学び、作品に描かれた様々な主題について考え、そこに表現された信仰に想いを馳せたいと思います。						
到達目標	●東方キリスト教とはなにか説明できる ●東方キリスト教世界の図像学的伝統に触れ、その特徴と歴史を理解する ●イコンなどに描かれる様々な主題を識別し、その意味を説明できる						
授業計画	第1週 オリエンテーション：授業の概要 第2週 東方キリスト教とは何か 第3週 東方キリスト教美術の始まり（1）～起源と初期キリスト教美術 第4週 東方キリスト教美術の始まり（2）～イコノクラスム 第5週 イコンの神学 第6週 ビザンツおよび南スラブにおける展開と特徴（1）～ビザンツ 第7週 ビザンツおよび南スラブにおける展開と特徴（2）～オフリドと中世セルビア 第8週 教会建築の発展と形式 第9週 ロシアのキリスト教美術と建築（1）～ロシアのキリスト教と教会建築 第10週 ロシアのキリスト教美術と建築（2）～フェオファンとルブリョフ 第11週 ロシアのキリスト教美術と建築（3）～近代化と美術 第12週 イコンの理解のために（1）～神学的テーマ（パントクラトル、至聖三者など） 第13週 イコンの理解のために（2）～キリスト、聖母、使徒 第14週 イコンの理解のために（3）～天使、聖人 第15週 まとめと展望 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎回の授業の復習を忘れないようにして下さい。 個人もしくはグループでの発表の準備を課する場合もあります。						
授業方法	主として講義形式。 個人もしくはグループでの発表、ディスカッションを行う場合もあります。						
評価基準と評価方法	課題点（レポートやテスト）及び平常点（授業への参加度、受講態度など）により評価する予定（課題点70%、平常点30%）。						
履修上の注意	●4回以上欠席した場合は、原則として不合格とします（4回も含む）。 ●欠席・遅刻は減点対象となります。私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。 ●初回の授業で、評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は欠席しないように。 ●私語などによって他の履修者の学習を妨げることを意に介しない学生は受講を遠慮していただきます。						
教科書	特になし。 配付資料によって授業を行います。						
参考書	旧新訳聖書 その他、授業の中で紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡB／（西方キリスト教美術）						
担当教員	上久保 真理					科目ナンバー	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教西欧における美術の意義について考えよう。						
到達目標	キリスト教西欧の美術の変容と多様化を概観し、その背景にあるキリスト教解釈と美術との深い関わりについて考察する。						
授業計画	第1回 導入（授業ガイダンス） 第2回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第3回 カロリング朝とオットー朝の美術 第4回 修道院・巡礼・十字軍 第5回 聖遺物崇敬・聖像理論 第6回 都市の発達と大聖堂 第7回 ロマネスクとゴシック 第8回 ルネサンスの息吹 第9回 科学と芸術 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回 映画の中のキリスト教 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることに。 また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることに。 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
履修上の注意	私語、携帯やメールの使用、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。 希望があれば費用各自負担・自由参加で学外見学することも可能。 授業の進行状況等により、毎回の授業計画に多少の変更の可能性もある。 ※質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡⅡA／（日本ジャーナリズム史）						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A43020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるジャーナリズムとメディア						
授業の概要	インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムやメディアに関する基本的な知識を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき報道やメディアの現状および問題点について概括的に学びます。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、送り手と受け手の双方からそれらの現状を把握します。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題について考えます。						
到達目標	・ジャーナリズムやメディアについての基本的な知識が得られます。 ・身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力が身につきます。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま（1）：新聞社 4 メディアのいま（1）：新聞の利用 5 キーワードから読み解くニュース（1）：報道の自由 6 メディアのいま（2）：出版社 7 メディアのいま（2）：書籍・雑誌の利用 8 キーワードから読み解くニュース（2）：報道被害 9 メディアのいま（3）：放送局 10 メディアのいま（3）：テレビの利用 11 キーワードから読み解くニュース（3）：炎上 12 メディアのいま（4）：インターネット 13 メディアのいま（4）：インターネットの利用 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の前後に参考書を読んでおくとう理解が深まります。 また、日常的にニュースに触れつつ授業に臨んでほしいと思います。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。 また、ディスカッションやグループワークに積極的に参加することが求められます。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書、1997年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡIB／（メディア社会の諸問題）						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A43030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会						
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられます。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがあります。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、容易に編集・加工されたりもします。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアですが、それゆえときに問題を引き起こすことがあります。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特性やそれがもたらす問題について考えます。また、実際に写真を撮ったりレイアウトを考えることで、それらを実践的に理解していきます。						
到達目標	・写真を批判的に読み解くための方法が身につきます。 ・写真の撮影やレイアウトを通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができます。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真（1）：報道写真 5 報道と写真（2）：異文化の表象 6 消費と写真（1）：観光写真 7 消費と写真（2）：キャプション 8 中間発表会 9 文化と写真（1）：顔と表情 10 文化と写真（2）：写真を編集・加工する 11 写真で表現する（1）：テーマを決める 12 写真で表現する（2）：「なにを伝えるか」を決める 13 写真で表現する（3）：レイアウトを決める 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に写真に興味をもち好きになることも学習です。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も設けます。また、簡単な制作課題にも取り組んでもらいます。						
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。また、ディスカッションやグループワークに積極的に参加することが求められます。2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VA／（演劇と文芸）						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバ－	A43040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史性とジャンル						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。						
授業計画	1. 文芸と演劇について 2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 8. 近代：イブセン① イブセンについて 9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ 11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 13. 現代：プレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 14. 現代：プレヒト② 現代劇への影響について 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	渡されたテキストの予習						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VB／（演劇と文芸）						
担当教員	枡井 智英					科目ナンバ－	A43050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本と英米の演劇発展の基本的知識を習得する。						
授業の概要	西洋と日本の現代演劇の概説を含め、ドラマ・シアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介と考察を行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。						
授業計画	1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 7. 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技術の発展 10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	渡されたテキストの予習						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A0104A
学期	前期／1st semester	曜日・時間	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文学と芸術の研究方法を学ぶ						
授業の概要	文芸の諸ジャンル（小説、童話、映画など）から有名作品を取り上げて、それらの研究方法を紹介する。						
到達目標	文芸作品の分析方法を理解し、その適用を想定できるようになる。						
授業計画	1. 講義計画の説明 2. 小説分析の印象批評と伝記的方法 3. 太宰治について 4. 「人間失格」 5. テーマ批評の方法 6. 「吾輩は猫である」他 7. 漱石の作品と「横たわること」 8. 構造分析の方法 9. 20世紀前半の映画 10. 「いとこ同志」分析 11. ヌーヴェルバーグについて 12. 「太陽がいっぱい」の分析 13. 童話研究の方法（1）「白雪姫」 14. （2）「シンデレラ」 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	TVも含めて、あらゆる虚構作品＝フィクション（マンガ、アニメ、小説）に触れる。音楽は、J-POPはもちろんのこと、演歌からクラシックに至るまで、ジャンルを問わず聞くように努める。美術展には常に気を配り、有名展には必ず足を運ぶ。						
授業方法	講義を基本とするが、常に質疑応答を試みる。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）＋テスト（44％）。3分の1以上の欠席で失格とする。						
履修上の注意	出席重視。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎B						
担当教員	打田 素之					科目ナンバー	A0104B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸ジャンルの研究方法を学ぶ。						
授業の概要	文芸の諸ジャンル（小説、アニメ、映画など）から有名作品を取り上げて、それらの研究方法を紹介する。						
到達目標	文芸ジャンルの分析方法を理解し、その適用を想定できるようになる。						
授業計画	1. 導入と授業計画の説明 2. 聖書の構造分析（1）「出エジプト記」 3. （2）モーセとキリスト 4. （3）福音書 5. （4）聖書とエジプト神話 6. 小説研究（1）『罪と罰』について 7. （2）『罪と罰』と福音書 8. （3）『罪と罰』とヨハネの黙示録 9. アニメ研究（1）「ドラゴンボール」について 10. （2）サイヤ人 11. （3）フリーザとセル 12. マンガ研究（1）「NANA」について 13. （2）分身と男女の性差 14. （3）少女マンガにおける母子融合の問題 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	TVも含めて、あらゆる虚構作品＝フィクション（マンガ、アニメ、小説）に触れる。						
授業方法	講義を基本とするが、常に質疑応答を試みる。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）＋テスト（44％）。3分の1以上の欠席で失格とする。						
履修上の注意	出席重視。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A01030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。						
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しみを味わいながら文章表現能力を高めることができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文章表現の基礎① 読点の役割とその意図 3. 文章表現の基礎② 語順の選択とその意図 4. 要約文作成（論説文）① 作成にあたって 5. 要約文作成（論説文）② 要約の取り組み 6. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）① 作成にあたって 7. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）② 物語の要約 8. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）③ 振り返り 9. レポートの作成①： レポートとは 10. レポートの作成②： 情報収集 11. レポートの作成③： アウトラインの作成 12. レポートの作成④： パラグラフを書く 13. レポートの作成⑤： 文章の形式を守る 14. レポートの作成⑥： 文章を推敲する 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習 レポートの作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（40％）、平常点（60％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて資料やプリント配布する。						
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ 表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークブック』知玄舎、2009						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	A01030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。						
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しみを味わいながら文章表現能力を高めることができる。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文章表現の基礎① 読点の役割とその意図 3. 文章表現の基礎② 語順の選択とその意図 4. 要約文作成（論説文）① 作成にあたって 5. 要約文作成（論説文）② 要約の取り組み 6. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）① 作成にあたって 7. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）② 物語の要約 8. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）③ 振り返り 9. レポートの作成①： レポートとは 10. レポートの作成②： 情報収集 11. レポートの作成③： アウトラインの作成 12. レポートの作成④： パラグラフを書く 13. レポートの作成⑤： 文章の形式を守る 14. レポートの作成⑥： 文章を推敲する 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習 授業外における レポートの作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（40％）、平常点（60％）						
履修上の注意	正当な理由がないと遅刻は認めません。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	必要に応じて資料やプリント配布する。						
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ 表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークブック』知玄舎、2009						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	佐藤 千晴					科目ナンバー	
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	・新聞の精読・製作を通して情報を判断する力、調べる力、表現する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける						
授業の概要	新聞の記事、見出し、レイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と実習（新聞記事を素材にした様々な実習と、デスクトップパブリッシング（DTP）ソフト「パーソナル編集長」を使った新聞製作）でその知恵を具体的に学びます。 ▽新聞、インターネットメディアなどの情報を読み解く力▽文章を書く力▽新聞という形で記事を組み合わせ、表現する力を育てます。 新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣の獲得を目指します。						
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・新聞やテレビ、インターネットのニュースに接触する習慣を身につける ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現できるようになる						
授業計画	第1回 オリエンテーション 新聞・メディアの活用法／シラバス解説 第2回 新聞の読み方を学ぶ① 新聞の構成／新聞記事を使った実習・ニュースの価値判断① 第3回 新聞の読み方を学ぶ② 見出しとレイアウト／実習・ニュースの価値判断② 第4回 新聞の読み方を学ぶ③ 記事の種類／新聞記事を使った実習・事実と解釈 第5回 新聞の読み方を学ぶ④ 「5W1H」を意識する／新聞記事を使った実習・縮約 第6回 見出しを学ぶ① 見出しの構造を学び、実際につけてみる／新聞を使った実習・縮約 第7回 見出しを学ぶ② ネットと新聞の見出しの比較／見出し作成実習／新聞を使った実習・縮約 第8回 記事を書いてみる① プレスリリースを素材に／新聞を使った実習・新聞整理ノートを作る①基本 第9回 記事を書いてみる② コラムに挑戦① コラムの構造を分析する／新聞整理ノートを作る②質問力 第10回 記事を書いてみる③ コラムに挑戦② 提出／新聞整理ノート③ 記事の背景を知る 第11回 記事を書いてみる④ コラムに挑戦③ 第12回 記事を書いてみる⑤ コラムに挑戦④ 第13回 「パーソナル編集長」実習① 基本を体験する／新聞整理ノート④ テーマを決めてスクラップ 第14回 「パーソナル編集長」実習② 写真の取り込み方・見出し／新聞整理ノート⑤スクラップの発表 第15回 「パーソナル編集長」実習③ 紙面を組んでみる 第16回 課題新聞A製作① 記事を選び、写真素材を調達する 第17回 課題新聞A製作② レイアウト・見出しを決める 第18回 課題新聞A製作③ 記事・写真を組み付け、整える 第19回 課題新聞A製作④ 仕上げ・提出 第20回 課題新聞A製作⑤ 振り返り 第21回 課題新聞B製作① ガイダンス／テーマを決め、記事情報・写真素材を集める 第22回 課題新聞B製作② 記事情報・写真素材集め／論説を書く①論説とは？ 第23回 課題新聞B製作③ 記事を作成する・レイアウトを考える／論説を書く②テーマ決定・データ集め 第24回 課題新聞B製作④ レイアウト／論説を書く③構成を決める 第25回 課題新聞B製作⑤ 仕上げ・提出／論説を書く④要旨から文章へ 第26回 課題新聞C製作① 企画案を作る／論説を書く⑤提出 第27回 課題新聞C製作② 構成を決める／取材案をつくる 第28回 課題新聞C製作③ 記事・写真の準備 第29回 課題新聞C製作④ レイアウト開始・記事の点検 第30回 課題新聞C製作⑤ 仕上げ・提出 課題新聞A＝4月～8月のニュースから選んだ記事と新聞掲載コラムで新聞をつくる 課題新聞B＝好きなテーマを設定し、ネットなどから集めた記事とオリジナルコラムで新聞をつくる 課題新聞C＝「自分史新聞」または自由題。すべての記事を自分で書き、写真もオリジナルを使う						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。 新聞スクラップ、作文などの課題を随時、出します。						
授業方法	パソコン教室での講義&実習形式です。						
評価基準と評価方法	課題新聞A～C=40% コラム・論説などその他提出物=30% 出席・授業への積極的な参加度=30% の配点で採点します。						
履修上の注意	毎日、新聞に目を通していただくことを前提に授業を進めます。新聞の定期購読を推奨します。購読できない場合は必ず新聞社のニュースサイトに毎日、目を通すか、大学図書館で新聞を読んでください。						

教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円＋税
参考書	パソコン編集入門（「パーソナル編集長バージョン11」対応版）＝日本機関紙協会大阪府本部・著、機関紙出版・刊 2000円＋税

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	民俗の比較文芸史／比較文化ⅣA						
担当教員	押川 かおり					科目ナンバー	A32050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文学におけるタブーの表現						
授業の概要	人間の究極のタブーを文学はどのように描いてきたか。ギリシャ神話、中世から近代のヨーロッパ文学、アジア文学、日本の古典から現代の作品を分析、比較していく。						
到達目標	文学作品を通して、表面的な意味のみならず、そこに存在する価値観や思想、文化の相違などを読み取ることができる。						
授業計画	1 タブーと文学・芸術 2 事実と文学～事件を扱った芸術・文学 3 ギリシャ神話①神々と怪物 4 ギリシャ神話②神と人々 5 中世ヨーロッパの文学①宗教 6 中世ヨーロッパの文学②伝説 7 中世ヨーロッパの文学③風刺 8 古代中国の文学①歴史書など 9 古代中国の文学②文芸 10 古代日本の文学①歴史書など 11 古代日本の文学②文芸 12 中世から近世の日本の文学 13 アジアの文学 14 近代から現代の日本の文学 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考文献一覧などを参照し、事前に作品に目を通しておく。						
授業方法	講読形式。折に触れ学生の発言を求める。						
評価基準と評価方法	レポート 70% 平常点 30%						
履修上の注意	各回の内容が関連しているため、できるだけ欠席の無いようにする。						
教科書	プリントを配布。						
参考書	講義時に参考文献一覧を配布。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報の基礎						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A71040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアと自分史						
授業の概要	本講義では、自分史を作成しながら、私たちの考え方や表現方法がメディアと深く結びついていることを理解してもらうことを目的としています。みなさんが生まれ成長してきた時代は、メディア環境が大きく変化した時期でもありました。親や祖父母の世代のメディア環境とは根本的に違っていると言っても過言ではありません。では、みなさんのメディア経験は実際どのように変わってきたのでしょうか。歴史的な変化の流れのなかに「いま・ここ」にいる自分を結びつける想像力を身につけてもらうことが、本講義のねらいです。						
到達目標	・メディア研究の基礎となるメディアの通史的な知識が習得できます。 ・自分史の作成を通し、情報の集め方や表現方法を実践的に学ぶことによって、メディア研究のための方法論が身につきます。						
授業計画	1 イン트로タクシオン 2 メディアとは何か 3 メディアの歴史的変遷 4 メディア環境を考える（1）：情報はどのように伝わるか？ 5 メディア環境を考える（2）：新聞記事を調べる 6 メディア環境を考える（3）：自分史「わたしか生まれたとき」をつくる 7 視覚に訴えるメディア（1）：情報をわかりやすく伝えるには？ 8 視覚に訴えるメディア（2）：図表で表現する 9 視覚に訴えるメディア（3）：自分史「はじめてのメディア利用」をつくる 10 メディアの移り変わり（1）：情報はどこまでいつまで伝わるのか？ 11 メディアの移り変わり（2）：インタビューをする 12 メディアの移り変わり（3）：自分史「メディアの昔と今」をつくる 13 自分史をまとめる 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	制作課題の取り組みに際して、一部、宿題を課すことがあります。自分のまわりにあるメディアについて、いつ、どこで、どのように利用しているのか意識しておいてもらいたいと思います。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単な制作課題に取り組んでもらうなど、手を動かしてもらう時間も多く設けます。						
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	メディア・広報コース志望者は履修しておくことが望ましい。私語は厳禁ですが、授業に関する積極的な発言は歓迎します。2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアと現代文化／文芸講読VB						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映像メディアを分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、映画や動画の鑑賞を通して、映像メディアをより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。授業では、テーマごとに、まず分析手法を解説したうえで、映画や動画を鑑賞します。鑑賞後、小レポートに取り組んでもらい、それにもとづいてディスカッションを行います。これらを通して、映像メディアを分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、映画や動画だけでなく、文学やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	・映像メディア（映画や動画）を分析するためのいくつかの視座を習得できます。 ・映画や動画を批評し、内容について他者と討論する力が身につきます。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 批評とは：映像メディアに対するアプローチ 3 物語の構造（1）：構造分析についての解説 4 物語の構造（2）：『千と千尋の神隠し』鑑賞・小レポート 5 物語の構造（3）：ディスカッション 6 文化の表象（1）：表象分析についての解説 7 文化の表象（2）：『ザ・コーヴ』鑑賞・小レポート 8 文化の表象（3）：ディスカッション 9 社会問題（1）：社会学的分析についての解説 10 社会問題（2）：『ズートピア』鑑賞・小レポート 11 社会問題（3）：ディスカッション 12 メディアの形式（1）：メディア論的分析についての解説 13 メディアの形式（2）：ネット動画の鑑賞・小レポート 14 メディアの形式（3）：ディスカッション 15 まとめ ※鑑賞する作品は変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常的に新聞やニュースに触れることで、授業の予習・復習をしてもらいたいと思います。						
授業方法	演習。教員による解説、受講生によるディスカッション。						
評価基準と評価方法	小レポート 60%（15点×4回）、平常点（ディスカッションへの参加や出席）40%、で評価します。						
履修上の注意	鑑賞後のディスカッションに積極的に参加することが求められます。 2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディアと文芸／文芸講読VA						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画の宣伝・広告戦略						
授業の概要	本講義では、スタジオジブリの映画プロデューサーである鈴木敏夫による宣伝・広告の仕事を中心にみることで、日本のアニメーション映画がどのようにヒットを生み出し続けてこられたのかを考えます。なぜスタジオジブリは『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』、『千と千尋の神隠し』などのヒット作を生み出すことができたのか。講義では、それをクリエイターだけでなくプロデューサーや映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などの協働による結果として分析していきます。そのなかでも、とりわけ宣伝・広告戦略という点に着目してみること、ヒットを生むための宣伝・広告を考えます。						
到達目標	・映画作品をクリエイターやプロデューサー、映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などによる協働の産物として分析する視点を身につけます。 ・成功する宣伝・広告を考える力を養います。						
授業計画	1 インTRODakション／発表者の割り当て 2 『仕事道楽』第1章 3 第2章 4 第3章 5 第4章 6 第5章 7 第6章 8 第7章 9 第8章 10 『ジブリの仲間たち』第1章 11 第2章 12 第3章 13 第4章 14 第5章 15 第6章 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で取り上げる範囲をあらかじめ読んでおく必要があります。また、授業後にも復習して内容を再確認してほしいと思います。						
授業方法	演習。教員による解説、受講生による発表やディスカッション。						
評価基準と評価方法	発表70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
履修上の注意	自分か発表する日に無断欠席をすることは厳禁。授業への出席や発言など、授業への積極的な参加が必要です。2/3以上の出席に満たない者は、原則単位認定を行わない。						
教科書	鈴木敏夫、『仕事道楽 新版 スタジオジブリの現場』、岩波書店、2014年 鈴木敏夫、『ジブリの仲間たち』、新潮社、2016年						
参考書	スタジオジブリ責任編集、『ナウシカの「新聞広告」って見たことがありますか。ージブリの新聞広告18年史』、徳間書店、2002年						